

学科	英語
氏名	谷本仰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	対話を大切にしています。あらかじめ用意された唯一の正答ではなく、学生たちひとりひとりの経験や考えに基づいた多様な応答を引き出し、これにその場で応答しながら授業を展開します。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	テスト、及び授業評価アンケートの総合的判断に加え、それらに数値として反映しえない、授業における学生たちの積極的な雰囲気(笑顔、楽しんでいる様子、発言、相互の関わり等)、そして独自に実施している全授業毎の全員へのアンケートにおいて示された意見や感想を含むフィードバックによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容的に妥当であると考えている。キリスト教がこの大学の建学の精神、礎、柱であることが、必修科目として、また入学直後の一年次の開講科目としてキリスト教学が設定されていることにおいて表されていると思う。この授業においてこそ、キリスト教の精神や本質が発揮され、分かち合わねばならないと思う。従ってここではキリスト教に関する知識の習得やその体系の理解に留まらず、この授業そのものを通して、キリスト教の体現しようとしてきた希望のこと、愛すること、生きること。諦めないこと、自分を大切にすること、他者との対話や共感を大切にすることなどを自分自身に関する事柄として捉えうる授業が目指されねばならないと思う。そしてそれは、必ずしも学生たちが現段階で自分の職業選択や将来に実利的に役に立つかどうか等の評価には馴染まないと思う。学生たちの自己評価を超えて、この授業を通じて分かち合われたものが、「種」のようにひとりひとりのいのちに満たされていくことを願っている。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

特に大きな改善課題はないと考える。クラス毎に、学年ごとに、個性があり、違いがある。その個性や違いに応じながら、今後も授業を進めていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

キリスト教学の授業は、楽しい。学生たちとの対話に満ちた90分は、いつも授業を担当する自分自身を新たにし、開いてくれる。その対話の中で、希望を学生たちと分かちあうことができるよう、今後も努力していきたいと思う。

学科	英語学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
西洋の歴史と文化	1・2・3・4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	回答者数は少ないのであるが、受講動機では、「関心のある内容である」と「単位数を確保する」がともに75%であった。高校世界史の履修を前提に、ヨーロッパ世界の過去と現在のつながりをたえず具体的に指摘しながら、授業に関心が持てるようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、優、良、可、不可に分散した。到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得る」「事象を理解する視点や考え方を得る」や専門分野に係わる諸項目では中央値以上であるが、「職業倫理や行動規範を学ぶ」等の項目では、中央値以下であった。授業の質評価では、評価基準、学習の範囲・課題の明確さでは比較的高評価であったが、学生参加の機会では低評価であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、総合人間科目の一つで、DP1、DP3、DP4に係わる位置付けがなされている。到達度自己評価に関する上述の評価に鑑み、内容的妥当性は、DP1に関して一応あるが、GP2、GP3に関しては不十分である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業は、教科書を使い、毎回、テーマに沿って、レジュメ1枚と関連資料数枚を配布して、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に際しては、最新の新聞記事も使い、歴史と現在の関連が捉えられるようにした。講義を踏まえ、レポートを課したことは有益であったが、予習・復習については、学生任せにしたきらいがあり、教員には、課題を具体的に与える姿勢が求められた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

高校までの世界史の履修を前提に、講義を通してヨーロッパ史について新しい知見を与えることはできたが、アクティブラーニングを促す工夫では改善の余地がある。

学科	英語
氏名	劉 明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
アジアの歴史と文化	全学年	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 受講動機をみると「単位数を確保する」69%、「関心のある内容である」31%となっております。学生の関心を引き出し、多くの学生に履修してもらえるように、シラバスの作成に工夫する必要があると思われる。 ②最初の授業にシラバス内容の確認や学生との意見交換を行った。 ③演習の7回目にレポートを提出してもらい、学習状況と学生の意欲・能力を確認するようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は89点であり、再試対象は0名であった。全員が理想的レベルに達したと思われる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。	目標別に見ると、知識理解に関しては100%、意欲関心に関する問題は100%、態度100%であった。それぞれの目標がやや達成されたことを示している。					
	学生による授業評価においては、知識理解、意欲関心、態度の観点での自己評価に差がないことが示された。					
	図書館、インターネットの利用に関しては、それぞれ、16%、36%で、図書館とインターネットの利用については、さらに指導することを考えている。					
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解、意欲関心、態度に関する達成度がある程度のレベルに達していることが示されているし、内容的には妥当であったと考える。 ②CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「アジアの歴史と文化」であるが、英語学科の学生にとっては「海外研修」をつなぐ要の位置にある。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、評価が良かったが、「何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という質評価の平均値(点)3.6となっている。次年度に向けては、学生の質問を受け付け、それに答える機会をもっと作っていききたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は「アジアの歴史と文化」であるが、英語学科の学生にとっては「海外研修」をつなぐ要の位置にあるから、学生がもっと積極的に参加する機会・環境づくりを図りたい。 また、学生の知識理解、意欲関心、態度を高めるために、授業中に話し合う、発表を行う時間を増やすようにしたい。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	廣瀬 信之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学	1・2・3・4	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生の積極的な受講態度を促すために、実際に体験できる実験やデモンストレーションを取り入れ、自らの体験として現象を理解できるようにしている。また、毎回の講義の後半10-15分程度を取って、その日の講義内容を自らの日常体験と関連づけて考え、コメントカードに記す時間とし、心理学を身近な日常の中にあるものとして感じてもらえるように努めている。 受講動機を見ると、「関心のある内容である」(44.4%)という積極的な動機よりも「単位数を確保する」(59.3%)という消極的な動機の方が上回っている。これには必修科目ではないことが大きく関連していると思われるが、受講するならば是非関心を持って受講してもらいたいのので、シラバスの内容を修正して「関心のある内容である」という受講動機を高めるようにしたい。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	標準的レベル(70点以上)に達しなかったものはおらず、受講生の多くが理想的レベル(80点以上)に達した。学生による到達度自己評価では、全ての項目において平均点が3.6-3.7であり、学科の平均点を上回った点で、目標は達成されたと判断した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、「心」の働きを科学的に研究する学問である心理学の諸領域について幅広く概説する授業である。知覚・記憶といったベーシックなテーマはもちろん、言語や思考といったテーマ、さらには社会的環境や文化が心の働きに及ぼす影響などについても触れており、英語学科のDP1-1(国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている)やDP2-1(現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる)に照らし合わせて、内容的に妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、いずれの項目も平均点が3.7-3.8で、学科の平均点を上回った。特に、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」で学科の平均点を上回ったのは、講義の後半10-15分をその日の講義内容を自らの日常体験と関連づけてコメントカードに意見を記す時間にあてたこと、およびコメントカードに記された質問内容のいくつかに対して次回授業の冒頭で回答したことを反映していると考えられる。今後もこの調子で続けていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価などを総合的に見ると教育目標はやや達成されたと言える。来年度は、例えば質問に対して回答する時間をより多く設けるなどして受講生からさらに積極的な参加意欲を引き出し、より授業の理解度が高まり、それがまた積極的な参加意欲につながるという正のサイクルが回り続けるよう努力したい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
健康科学実習Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。 ② 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。 ③ 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。 ④Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。 自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は82点であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは13名(25名中)と、欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。 目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。意欲関心も平均値は高く、次年度もさらなる積極性を生み出すよう考えたい。 学生の自己評価の高さと評価とのギャップを埋めるべく、評価のポイントの提示を明確にしてゆきたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、生涯にわたる自己の健康管理をできるほどの運動の原理原則を実体験し修得する場として有用性を高めていきたい。学生は積極的にであり高い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によっての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

1221700

リフレクションカード 2015年度後期

学科	英語学科
氏名	末廣 幸恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活と環境	1・2・3・4	後期	選択	はい	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

①日々変化する環境問題や国際関係を取り上げるために、教科書は使用せず、適時レジュメと参考資料を配布した。②理解の難しい用語や組織、団体、事象に関しては新聞記事、インターネット、動画等を利用し、学生が取り組みやすいように工夫した。③レポート提出を課して、自分の足を使って調べる作業を通して、興味や関心の幅が広がるように指導した。④授業内で押さえておきたい重要な項目に関しては、学生同士で議論をさせ答えを導き出せるように指導した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の平均値は84点、再試対象者は1名であった。標準偏差値はSは13名、Aは2名、Bは0名、Cは4名、Dは1名であった。高得点者が全体の約6割強を占めたが、高得点者と点数の低い学生の開きが見られた。これは授業で取り上げた環境問題や国際関係等に関心を示す学生とそうでない学生との結果が反映されたと思われる。選択科目であったため、受講動機においても単位数の確保を目的とする学生が7割弱、授業内容に関心を持ち臨んだ学生は3割程度であった。しかしDP1においては「自分なりの目標の達成」「知識の確認、修正、新たに得る」「視点や考え方を得ることができた」「課題を検討する力」「的確に判断する力」「必要となる技術」等で概ね高い評価を示した学生が多かった。このDPの結果から選択科目が学生にとって新たな視点や考え方を養う良い機会と捉え、興味や関心を持てるような工夫を授業に導入し、地道な指導を行うことが必要であると感じた。					

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価:全項目に関して多数の学生が高く評価していた。最新の情報を教材として取り上げ、また海外ボランティアやNGOで活躍する日本人の活動等を紹介したことが学生の関心を高めた結果と思われる。さらに国内外の諸問題をグループで話し合い、発表するなど学生に参加する機会を務めて作った結果が数字に表れていると思われる。②学習量の評価:授業に参加するための予習、復唱をしなかった学生が半数であることから、授業中での復習を兼ねた小テストやレポートの提出を検討している。③学修のための情報利用、図書館利用: 選択科目であるにも関わらず、シラバスを参考にした学生は約3割にとどまった。受講動機においても単位数を確保するためと答えた学生が7割いたので、オリエンテーションでの本科目の目的と内容に関する情報を的確に伝える必要性を強く感じた。しかし、受講動機で関心のある内容と回答した学生が3割強いたことから、大学講義を受講する本来の意味を理解している学生もいたことから、指導面や内容面の更なる改善と充実を検討する必要性を感じた。図書館利用に関しては、昨年の利用者数が皆無であったことから、図書館利用を促す取り組みを行った。また国内外の事象を学習する観点から、メディア等を利用した情報収集が学習内容の一つであることを指導した。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	選択科目は単位数を確保する目的で受講する学生が多い中、本科目は受講動機で「関心のある内容である」を挙げている学生が少なからずいた。このことを踏まえて、オリエンテーションでは授業の情報を的確に伝え、学生の国内外の事象に対する関心を深めるための良い機会と捉え、情報活用や図書館利用の強化を促したい。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	岡本 正宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報科学演習Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	(1) 世の中で盛んに用いられている、データベースとは何なのか？どのように作成するのか？どのように利用するのか？について、理解させる。そして、データベースソフト Microsoft Accessを用いてデータベースの作成、検索・抽出法を修得させる。 (2) Excelを用いたデータベースとの類似点・相違点を把握させる。 (3) テーブル、リレーションシップ、フォーム、クエリ、レポートの作成法を修得させ、数多くの例題演習をさせ、毎回、課題レポートを提出させる。 ＜昨年度からの改善点＞ 授業のスピードが早過ぎるとの指摘を受けたことから、課題数を減らし、その分、1課題の説明に時間をかけた。その結果、授業アンケートでの理解度が向上した。 、
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①態度は、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の指標に対して、「まあまあそうだと思う」以上の評価は、10名中10名で、学生の授業の態度は、達成された。 ②技能表現は、「専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」の評価で、「まあまあそうだと思う」以上の評価は、10名中10名で達成された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	到達度自己評価の10項目のうち、(8)「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」において、「少しそうでないと思う」が、10名中1名いただけで、その他すべての自己評価は、「まあまあそうだと思う」以上であった。そのことから、DP、CPは内容的に妥当であった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

依然として、説明が少しはやかだったので、もう少しゆっくり言ってほしいの意見があることから、次年度はこの点を再度考慮する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

全体的に達成状況は昨年度以上になっており、成績も昨年度に比べて上がった。
補講がいつあるか不安になるので、早めに補講の日付を設定してほしいです。の意見が出たことから、来年度はこの点を注意する。

学科	英語学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
韓国の社会と文化	1・2・3・4	後期	選択	はい	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国の社会・文化全般にわたる概論としての授業であるため「現在の韓国」について取り上げた。学生の受講動機は「関心のある内容である」が最も多く、グループ発表を重視する評価をしているため、毎講義のテーマについて自発的に調べるように誘導した。これによって韓国に対する知識を培うことはもちろん、これから学生たちにあるであろうプレゼンテーション能力を養うことができたと思う。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	平均成績は70点であり、落第は一人もいなかった。 また到達度自己評価の全項目にわたり平均値が学科平均より高い。さらに注目したい点は中央値が高いことである。概論の授業として「2.知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の中央値が「4」であることからしても所定の成果を得られたと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみての内容の妥当性 多くの学生がシラバスを参考に受講を決め授業の質評価でも学科平均より高い回答が得られたことから、授業が当初の計画通り進み、学生たちの満足度が高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみての内容の妥当性 「学習量の評価」の自由記述から予習や復習に時間を割くよりグループ発表での調べ物に注力していたことが分かる。シラバスに明記しているように「自発的な授業参加」ができたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」で3.2の評価を受けた。観光文化学科と共同授業であるため七十人前後と大人数での講義になる。そのため学生個人個人へのフォローができず、グループでの助言しかできない。 また学生同士の知識量の差があるため意見交換や討論が不可能な講義でもある。クラス分けなど少人数にしない限り無理だと思うが、この状況でも個人の意見や感想を交換できる方法を探りたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。これからも「現在の韓国」への理解を深められるよう工夫を重ねていきたい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	福田 達也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1・2・3・4	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講生が板書をノートにきちんと書き留めるように、あえて配布資料・プリント等の厳選した。そのため、毎回のように講義に出席し、説明を漏らさずに聞いている学生と、講義中の説明等を聞いていなかったり、欠席が多い学生との間に、講義内容の理解に大きな差が生じたように感じた。以上により、学生の学習準備性については、講義の予習よりも毎回の授業の復習を行うという傾向が強いのではないかと推断する。受講動機については、6割以上の学生が単位数の確保のためと回答しており、日本国憲法に興味を抱いて履修する学生が約3割であるので、今後は履修した上で日本国憲法に興味を持ってもらえるよう工夫を施していきたい。また、受講動機については、少数ではあるが、先輩に勧められたとあり、勧められた理由が「単位を取得しやすい」などという安直な理由でなければ良いが…と危惧している。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された			どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	試験の成績については、全体として高得点者が多く、上記の目標はほぼ達成できていると思われる。しかし、学生による授業評価によると、到達度自己評価の全ての項目において、多くの学生が③の「まあまあそうだと思う」および④の「わりにそうだと思う」を選択しており、試験の成績とは別に学生の授業内容の理解に努力が必要であると感じた。学習量の評価については、0時間と回答する学生が多いので、今後は授業時間内だけでなく授業時間外学習をしなければならいよう工夫を施していきたい。さらに、授業時間外学習時間が少ないことと併せて、図書館やインターネットの活用についても、利用していないと回答する学生がほとんどであったので、上と同様に今後の課題としたい。併せて、自由記述欄で、「講義内で理解」との記述があったので、喜ばしい反面、講義外での学習により理解を深められるよう工夫を施す必要があると感じた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP,CP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性については、ほぼ問題ないと思われる。日本国憲法は基本的には、まずは制度の内容や基礎理論の理解が重要であり、知識・理解の面が極めて重要であると考えられるためである。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の進行方法については、現在のところは変更を検討していない。上記3においても触れているが、毎回授業の概要を示したプリントの配布をすることの意義については理解しているが、これにより授業の際の説明を不十分に聞いてしまう学生が発生するのではないかと危惧している。板書による講義スタイルを採用しているが、板書だけでなく、説明を聞いていないければ内容の理解に至らないようには工夫している。受講生自身が、板書の文字だけでなく、補足説明を聞きながらそれぞれのノートテイキングを行い、理解を深められるようさらなる工夫を考えたい。講義中における概要プリントがない分、毎回の授業の説明をきちんと聞いておかなければならないという意識を学生に持ってもらえたらと考えている。現在のところは、試験の全体的な成績を見てもわかるように、このスタイルである程度は理解が高まっているので、今後、全体的な成績がさがらうであれば、概要プリントの配布も検討していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	上記4においても触れているが、学生の授業時間外学習をいかに確保するかが今後の最重要課題と認識している。適宜、課題を課す等、積極的に取り組んでいきたい。やる気が出なかったとの自由記述もあったので、如何に学生に興味を持って学習に取り組んでもらえるか検討したい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	麻生 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フランス語Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	はい	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期「フランス語1」を履修したのちに受講するよう勧めたところ、登録した全員が前期からの継続受講だった。受講動機は「必修科目である」と「資格取得に必要である」が66.7%と最も多かった。次いで「単位数を確保する」が50%、「関心のある内容である」は16.7%だった。前期「フランス語1」に比べ、フランス語に対する関心からというより、卒業単位数確保のため、将来の就職活動などに役立てるためという動機が目立つ結果となった。いかなる動機であっても継続してフランス語を学びたい意欲に変わりはない。初回授業のオリエンテーションでは、DPによる評価方法を配点も含めて改めて提示し、授業に臨む心構えをするよう促した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は77点(±24点)であり、再試対象は0名だった。出席した全員が標準的レベルに達し、理想的レベルの80点以上に達したのは7人中4人(うちA評価4人、B評価2人、C評価1人)であった。 学習到達度の自己評価を目標別に見ると、「まあ達成できた」～「大いに達成できた」と回答したのは、DP1「知識・理解」、DP3「意欲・関心」、DP5「技能・表現」とも全体の83%という結果だった。 学習量の面では、1回30分程度以上の予習・復習を週に1回以上行ったのは50%であった。小テストや課題提出などを繰り返したことで、語学は毎日の積み重ねだとの自覚を促してきた。しかし自由記述によれば「手が回らない」とあり、学習時間の確保が難しい学生もいたようだった。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目はカリキュラムマップ上の「総合人間科学」の「国際社会と現代」であり、総合人間科学のCP「知識と教養を培い、総合的・分析的視点で問題を捉える能力を伸ばす科目」という観点到達なく、学生は一定の成績を収めていることから、内容として妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 DPの観点では、全般的評価に当たる「自分なりの目標を達成した」の質問に「まあ達成できた」～「大いに達成できた」と回答したのは83%であることから、内容として妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、おおむねどの項目も評価は高かった(平均値は4.0から4.5)。グループやペアで話し合って答えを導く協同学習を主体としていたことや、具体的な目標設定(「近い未来について話す」など)に向けて毎回の授業を進めたことが、評価の高さにつながっているものと思われる。 インターネット利用について、教科書の各課の映像がWEBで公開されており、授業後に再視聴して復習するように促したが、実際に利用したのは1割以下だった。また授業の課題以外に学習に取り組んだのは16%であった。次年度に向けて、より効果的な教科書の選定を行い、自習に効果的な参考書やサイト、フランスに関する図書の紹介に努めたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	総合人間科学のCPIに合致する協同学習の結果、ある程度高い自己評価が得られ、一定の成績を残すことができた。少人数授業の特性を活かし、1人ひとりの問題に対応しつつ、今後も先生が一方的に「教える」のではなく、学生同士で「教え合う」授業スタイルを徹底させていくことが望ましい。英語に比べて学習時間の短いフランス語を1年間でどれだけ使いこなせるようになるかが課題だが、いかに興味・関心持続させていくかにも留意したい。そのために授業外でもっとフランス語に触れられるよう、魅力的なコンテンツを利用させるなど、教科書だけにとどまらない学習方法を提示していきたい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	篠原 征子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語Ⅱ	1・2・3・4	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は中国語の基礎知識を学習するものである。中国語Ⅰで習った知識を復習しながら、会話練習、作文練習することを通して、学習者に分かった、できた、通じたという喜びを感じさせ、中国語を話せる自信を付けていくことが、授業の実施にあたりもっとも大切だと考えた。今回の受講動機を見ると「関心のある内容である」が60%で、そのほか「単位数を確保する」が30%であったが、到達度自己評価の(8)コミュニケーション力や表現力を高めることができたの項目では平均値が4.0であった。この授業は成果があったと言える。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は81点であり、再試対象は0名であった。全員が標準レベルに達し、理想的なレベル(おおむね85点以上として試験を作成)に達した学生は5名と、まだまだ限られていた。 学生による到達度自己評価において、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.9で、中央値は4.0で、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値と中央値は共に4.0であったことから、おおむね教育目標達成したと言える。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容の妥当性 本科目は「総合人間科学」に属する選択科目である。英文学科の学生の受講動機は主に「関心のある内容である」であったので、中国語、日本語、英語を比較しながら、授業を進めるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的に妥当であると考え。 ②DP、行動目標から見ての内容の妥当性 「成績評価」と「学習到達度自己評価」などの平均値から見て、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価を見ると(1)(2)(3)(4)の中央値は4.0で、(5)は4.5であることから、大多数の学生は授業の趣旨を理解し、授業の進め方を肯定し、真剣に取り込んだ。授業内容や進み方は学生に適していると考ええる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

「総合人間科学」の一科目として、基礎知識の形成についてはおおむね達成できた。
授業以外の学習方法の指導、とくに図書館の利用に関しての不足点は来年度に改善を行いたい。

学科	英語学科
氏名	金 銀英

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングルⅡ	1・2・3・4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	初級レベルの語学力をつけるのがこの講義の目標であり、前期の「ハングル1」に引き続き受講する学生がほとんどであるため授業動機が「関心がある内容のため」が最も多いのも頷ける。 また講義内容の節目に小テストを実施することにより学生に学習状況を認識するようにした。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	平均成績は65点であり、再試験に応じた学生の中から落第は一人もいなかった。 また到達度自己評価の全項目にわたり平均値が学科平均より高い。さらに注目したい点は中央値が全項目4と高いことである。 「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の評価が高いのは本講義が単なる語学授業ではなく、異文化への理解を深めた証だと思われる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラム上の位置付けからみた内容の妥当性 多くの学生がシラバスを参考に受講を決め授業の質評価でも学科平均より高い回答が得られたことから、授業が当初の計画通り進み、学生たちの満足度が高かったことが分かる。 ②DP、行動目標からみた内容の妥当性 学習量評価をよると、教材を用いた予習・復習には時間を割けなかったが、担当教員への意見によると、自分が興味のあるもの、例えばK-popで韓国語の発音練習をしたり、動画を見て聞き取りをしたりと多様な取り組みをしていたことが分かる。シラバスに明記しているように「積極的な姿勢での授業参加」ができたことが分かる。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、全項目において高い評価を得られていることから授業進行に問題がなかったと思われる。学習量でも各自好きな方法で学習を進めているので問題ないと思われる。これからも学生たちが積極的に学習できる素材を紹介しようと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生からの「到達度自己評価」や「授業の質評価」で高い評価が得られたことから学生たちも満足できる講義内容と思われる。これからも韓国語と韓国の文化、さらに異文化への理解を深められるよう工夫を重ねていきたい。

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語学概論	1	後期	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力教育検定試験の問題回答、という流れで進めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業評価の中に、「教科書の用語が難しかった」という意見があったが、日本語学分野で今回採用した教科書は、現時点で入手できる書籍の中で、おそらく一番基礎的であると考えられる。特に言及があった「心理学」を扱う時の宿題の出し方への配慮が求められていると判断する。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語学に関する基礎的な知識を広く網羅した今学期の授業については、高く評価していいと考えている。心理学分野を扱う時の宿題の出し方を工夫していきたいと思う。

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育に関して「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今学期は受講生が5名だったため、学生と対話する時間が多めにとれた。来年度以降、受講生が増えた場合でも、できるだけ学生と対話する時間が取れるように努めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育に関して、「教室運営」をテーマとして選び、体験型で進めた今学期の授業については、高く評価していると考えている。今回の授業で実現した、受講生とのやり取りの増加を、受講生の人数が増えても実現していきたいと思う。

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育方法論演習Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業のDVDを作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育実習の前段階としての本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教育実習の前段階としての本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

マイクロ・ティーチングを不安に感じる学生がいたことも事実であるが、次学期の日本語教育実習に向けて越えなければならない適度なハードルであったと考える。
学生の自由記述にも「大変だったが達成感があった」と意見が多くみられるので、この形式を継続していこうと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート・自由記述に基づき、日本語教育の前段階の本授業については、高く評価していると考えている。授業づくりを不安に感じる学生に関しては、注意深くモニターし、必要に応じて足場かけを行いたいと思う。

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語教育実習	3	通年	選択	いいえ	5

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	教育実習の教壇実習授業として、(1)ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、(2)北九州YMCAでの授業と、2度実施した。各教壇実習授業の回数と授業時間の増加により、昨年度に比べ、1.5 倍近くの実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけでなく、実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の極めて高い授業であったと判断される。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本年度は受講生が4名（前期は5名）だったため、昨年度よりも学生と対話する時間が多めにとれた。来年度以降、受講生が増えた場合でも、できるだけ学生と対話する時間が取れるように努めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、日本語教員養成課程の最終段階に位置付けられている本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。来年度以降、受講生が増えた場合でも、できるだけ学生と対話する時間が取れるように努めていきたい。

学科	英語学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本語表現とホスピタリティ	2・3・4	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講義の特徴としては、すべてが机上の空論であってはならないことがまず念頭に挙げられると思う。教材はすべて独自の資料であったので、教科書に頼ることに慣れている学生には少し戸惑いがあったかもしれない。日本語を客観的に捉え、日本の生活の表層にある問題点を常に意識しながら、ホスピタリティの観念を理解できるか、多くの事例を提示し、学生参加型、討論型の講義を展開するよう努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	一人ひとりの学生が非常に意欲的かつ活発に討論に参加し、成績もおおむね80点以上で理想的レベルに達していた。ただ、欲を言えば、まだまだ完璧ではないので、自身の考えがどれくらい公に通用するのかという点に於いては、課題が残っている。関連の高い書物を読み解き、それに関して自身の考えをまとめる訓練が、必要とされる段階である。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 は実学として、社会に実践できる実力を養うべき観点から鑑みれば、必要不可欠な講義であるゆえ、内容的には妥当であると考えます。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 のであった。殊に科目に対する取り組み方、集中力は、評価できる。そして上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ ないと思われる。 「日本語表現法」に加えて内容的に成績評価も、意欲関心も大変高いもので、以上から、内容的妥当性には問題は
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

討論形式に組み立てて講義を進めたことに関しては成果はあったと思うが、改善方策として、英語科に在籍しながら日本語の奥義を理解し、客観的考察する段階で、学生がもっと関心を抱くような事例研究、「発想の転換」に関しての講義の在り方研究をしなければならないと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

今の段階での達成状況は一応の成果をみているが、学生が一人残らず今以上に、自らの考えを堂々と発表出来るような真の実力が付くよう、事例研究に専念したいと考えている。

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion II (Aクラス)	3・4	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course followed on from the first semester where the students were encouraged to play a greater role in the development and assessment of the course to develop their critical thinking skills. This semester, the focus was on business English, and we worked on case studies, research skills, SWOT analyses, and a final project. The students were encouraged to be proactive in their studies and prepare thoroughly for the classes.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on a number of criteria: Class performance, Preparation, Assignments, and Final Project. All students who regularly attended the course and completed assignments achieved passing grades. A few students failed due to excessive absences.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Given that this was the lower ability “A” class, I was exceptionally happy with their achievements. This was a difficult class for them, but they all rose to the challenge. DP2, DP3, and DP5’s targets were all achieved. DP1 was the only problem as they were hindered a little by a weak understanding of the topics and a lack of pre-knowledge.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the next academic year, the goal is to flip the classroom and have students study the material BEFORE class so that they can work on collaborative activities with class. As we will be using Room 531, the Active Learning room, we hope for students to be more involved with the process of class material, using what they have learned in more effective ways.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

We will continue with the system started last year of assessment being decided by both students and teachers on a collaborative basis.

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Advanced Eng. Discussion II (Bクラス)	3・4	後期	選択	いいえ	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course expects students to use the skills they developed in Years 1 and 2 to explore the world of business. Students are expected to discuss real business topics. Active Learning concepts presented in Advanced English Discussion I are applied to this course. Researching and discussing the various topics are integral to the course as is self-evaluation following individual and group presentations.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students were generally well prepared for the class activities, having done significant research for the topics. Although the research element was expected to be quite detailed, many of them stood up to the challenge and demonstrated good research skills.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1: Students were required to use the skills they have learned in Years 1 & 2, plus do adequate research for the various topics. They handled this well. DP2: This area could use some improvement. Some of the students were very passive about organising, planning and preparing for group activities. DP3: Generally, the students worked very well and achieved great results. DP5: The students developed their general English skills well.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Some more preparatory activities need to be included in order for the students to better participate in the decision making process.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

This course is primarily based on self- and peer-evaluation. The students, in general, have been quite proficient at this, although some more direction could be provided so as to improve this element further.

学科	英語学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Public Speaking II	3・4	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	In the second semester students continued write their own speeches and preform them without difficulty for the most part. Students had enough time to prepare their speeches. Again there were students who didn't e-mail their speeches in a timely matter. .The students mostly performed at very different levels, from low to very high. Students made positive coments on the evaluation sheet forms.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were asked to repeat their own speeches several times to improve them and to assess them as well as those of their classmates. Most of the grade was derived from the actual performance of their speeches. Also they were evaluated on their research skills as well as constructing the speech.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students were able to state their own opinion, brainstorm their ideas,write a speech and deliver their speech in class. About 80% of the class could do the tast but some students didn't complete task or come on time.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Again the student comments I received were quite positive. I should have been more strict with time deadlines. Students wait till the last minute to send their speeches and that results in no practice time. I have been teaching this class for twenty five years so I know pretty much understand and can handle the class.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

This is my last year to teach so, I don't envision any major changes in the Public Speaking class. I would have liked to focus more on fluency as the final goal of this class. If students can speak in good English for three minutes, they can gain the confidence and skill they need to speak fluent English

学科	英語学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Debate	3・4	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is valuable for critical thinking. The students learned how to argue their point. I am teaching this class for the last time next semester so I plan to make several improvement
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The class was of mixed ability students and some of them attended irregularly making it difficult for them to understand the complexities of debate. However a few of the students were able to follow the debate process and did quite well in critical thinking					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	I believe this course to be very valuable for third and fourth year students and it is a shame this course will not be continued in the coming year. There is great value in teaching students critical thinking strategies.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

In the next semester I hope to make the course easier to understand for the students who take the course.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Depending how many students take the course, it is possible to give more individual attention and perhaps make debate teams and debate issues as this is an election year in the United States and there are many debates televised.

1. 基本情報

2. 観点・DP上の位置

3. 授業準備について

4. 学生の目標達成状況について

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	ビジネス英語においては、業種・業態に関係なく共通して必要な単語などが数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、(7)自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた、などの項目において、全員が「そうだと思う」の項目を選択していることや、数値的にも小テストに比して定期試験の平均点が大幅に向上した点からも、内容的に妥当であると考えらる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	受講人数の少ないクラスだったので、学生との距離が短く、授業を進めるうえで、確認や意見交換などコミュニケーションのやりとりを非常にスムーズにすすめることができたと判断していた。しかしながら、授業の質評価における項目(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、という質問に対して、1名が「少しそうでないと思う」を選択していた。さらに、学習量の評価において、質問(3)授業の記録はどうしていましたか、に対して同様に1名が「主に配付資料に記録した」を選択回答していた。1名とはいえ、少人数クラスでこのような受講生がいたことは非常に重要な点で、少人数ゆえにおろそかになりがちな点でもある。なぜならば、このクラスに関しては学生とのやりとりに関しては、他のクラスよりもかなり自信をもって臨んでいたからである。特に学習の記録については、開講日に授業専用ノートを必ず準備し、単語の下調べなど予習の成果、教科書の演習問題の解答や英文の和訳など学習した内容はすべてノートに記録するように指導していたので、その指導が文字通り隔々まで行き届いていなかった。今後は少人数クラスという授業環境に甘んじることなく、受講者ひとりひとりの表情や学習姿勢などに対して目配り、気配り、心配りを怠らないようにしていきたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	DP1知識理解に対する評価を全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標は達成できたと考えている。ただし、前述のとおり、少人数クラスに陥りがちな過信や主観的な判断を行わないように十分気をつけたい。そのためには、開講の半ば(第7回もしくは第8回目の授業前後)で、ミッドターム・アンケートなどをとり、受講生のニーズや満足度測定などsemester後半の授業で活かせるように改善策のひとつの選択肢として検討したい。またそうした取り組みを次年度の授業にも有機的につながるように心がけたいと考えている。指名スタイルについては、おおむね評価が良好なので、指名の方法やルールづくりを明文化するなどして、学生のニーズやモチベーションキープに結びつくような授業準備および授業展開を図っていきたい。

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語資格演習Ⅴ	3・4	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語資格に置ける目標数値を達成するために、とにかく単語を沢山習得することと実践問題に取り組む時間を確保した。受講動機に置いては100%の学生が「関心のある内容である」を選択し、授業開始時に行った面談では、受講理由を「語学としてのハイレベルな英語学習を勉強できるのがこの講座だけである」と回答した学生が全てであった。よって学生の学習意欲は最初から最後まで一貫して高かった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	7名の受講者のうち、秀が3名、優が4名であり、毎回実施した小テストもほとんどの学生が高得点を取得した。アンケートの到達度自己評価に置いても項目(1)4. 2(2)4. 7(4)4. 7(5)4. 5(6)4. 7(7)4. 7などと学生自身の達成感も高かったと伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	この講座は旧カリキュラムの遺物であり、TOEFLの受験対策に置いては今後は各教員が個人で指導するなどに対応することとなったので、存続はしないが、英語が高レベルの学生が高学年になっても語学としての英語を学習できる場としては、カリキュラムマップの位置づけにおいて内容的に妥当であった。学習量においては、項目(1)④2名⑤4名、(2)④5名⑤1名などと、ハイレベルクラスにふさわしく、授業のために予習復習を十分に行ったことが示されている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

履修のためにシラバスを参考にしたと全員が回答している。少人数クラスのため学生のニーズに一番あった内容とするためには、1回目の面談後にテキストなどを含めた具体的な学習内容を決定したいところであるが、明確かつ柔軟性のあるシラバスの記載の重要性が問題となってくるであろう。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生が受講中、受講後にTOEIC高得点取得や英検準1級の合格を報告してくれたのは朗報である。今後も新カリキュラム編成に置いて、授業数が少なく就活を中心に進めるが英語学習を真剣に継続させたいハイレベル学生のための少人数クラスを何らかの形で継続させていくことが必要と思われるので、この授業の経験を参考にしたいと思う。

1255101

リフレクションカード 2015年度後期

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語通訳演習Ⅱ	3・4	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。

開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

初日の授業では、前期に履修した学生に、各自が作成した「前期の総括」を返却し、現在の立ち位置および後期の目標を確認してもらった。逐次通訳における聴解作業では、心に刻印するような聴き方が必要である。よって、シラバスの記載事項(展開の予測、音声情報の映像化、自分の言葉にする言い換え練習)に触れ、記憶に留める練習をする旨伝えた。英語から日本語への単なる言葉の置換ではなく、脳と五感を関与させた聴き方によって初めて情報を忘れず内在化できる点を強調した。また、英語の発話能力を高めるために、自分の言葉で言い換えた日本語を更に英語でパラフレージングする練習を徹底するように促した。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	二組32名(25名と7名)の受講者のうち、80点以上の取得者が15名、そのうち7名が90点以上、平均点は77点であった。DP1「知識理解」DP2「思考判断」DP3「意欲関心」DP5「技術表現」に関する回答項目(2)から(8)を見ると、「わりに/かなり」の平均は、回答者総数が30名に対し22名であった。全体として概ね達成できたようである。予習では、週2.3回が5名、4.5回が8名、6回が14名、復習は週2.3回が11名、4.5回が8名、6回が7名であり、しっかり課題に取り組んでくれた。今後も更に思考力や判断力の強化および技術表現力の向上のために工夫したい。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムマップ上の位置づけは「専門展開科目」である。知識と運用力の両面での達成が期待される。英語の発話力および表現力が課題であるため、英語でのパラフレージングや要約の機会を意識的に増やしたところ、「自分の言葉にする」ことの難しさを感じるとともに楽しさを感じたという自由記述があった。発話に対するためらいがなくなり、英語でやりとりできる機会が増えたように思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	通年のクラスであるため、通訳訓練メソッドや課題の取り組み方をすでに理解してくれているので、始業時からテンポよく授業が展開できた。文法説明では日本語を使ったが、これを英語で行い理解してもらうことが、今後の課題である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生がしっかり課題に取り組み、引き締まった授業展開が可能であった。予測力、推測力、要約力等、思考力を高める練習に前期は戸惑っていたが、今期は積極的に取り組めた。今後も母語に関わるこれら能力を高めるとともに、英語の基礎力を更に堅固にするための工夫を行いたい。来期は英語の品詞仕分け(スロット仕分け)を徹底したいと思う。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	ノリス 志津代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
同時通訳演習Ⅱ	4	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	初日の授業では、練習の重要性を再確認するために、初見での英文記事の訳出がどれだけ可能か挑戦した。昨年の英語通訳演習の授業を通し、講師が求めていることを概ね理解してくれているので、シラバスの授業概要を確認し、後期ではより難度の高い英検準1級や1級の読解問題にも取り組む旨伝えた。英語の発話力を更に高めるために、英語でパラフレーズする練習を継続して徹底するよう指示した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験受講者6名のうち、80点以上の取得者が4名、そのうち2名が90点以上、平均点は82点であった。DP1「知識理解」DP2「思考判断」DP3「意欲関心」DP5「技術表現」に関する回答項目(2)から(8)を見ると、「わりに/かなり」の平均は、93%であった。全体として自己評価はよかったと思う。復習は週0回から6回まで分散したが、予習では、週4.5から 6回が80%であった。基礎力のある学生のスキルを更に向上させることが前期の課題であったため、後期では難度の高い教材も活用し、全体のバランスを取った。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	同時通訳に展開するためには、まだ英語の音声解析力、構文解析力、表現力、英語の発話力が不足しているので first-in-first-outの前出し訳およびオーバーラッピング訳で訓練を重ねている。音声や構文の把握力を高めるために、シャドーイング、リズム暗唱や構文重視のディクテーション練習を行い、同時通訳のための基礎作りに取り組んでいるところである。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	訳出後に日英で行うパラフレージングに加え、日英ペア逐次通訳練習を行うことで、実践的な通訳練習の機会を増やした。学んだ教材の内容を自分の言葉で言い換えるのみならず、ペアの相手の言葉を訳すことで、教材の英語表現や語彙を積極的に使う機会を増やした。自由記述では、英語を通して、知識を広げることができたという記述が多かった。通訳では話者の専門分野に対する知識が不可欠であるため、今後も教材の深読み練習を続けたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	全体として、双方向で意見を交わし、活発な議論ができた。授業のなかで互いに刺激し合えるよい学習環境を学生達自身が作った。授業はなるべく英語で展開しているが、構文説明などでは、日本語を使っている。この点が今後の課題である。また、日英の通訳練習を多く取り入れ、英語の発話力向上の努力を続けたい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英米文学作品研究(劇・詩)	3・4	後期	選択	はい	25

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①英米文学の中から、主要な詩人たちとその作品をテーマに講義し、購読、鑑賞した。 ②詩の技法や鑑賞法を学習していく中で、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習を行った。 ③受講動機を見てみると①必修科目28%、資格取得に必要24%、関心のある内容24%、単位数の確保67%、友人が履修14%であった。学生のコースによっては必ずしも必修とは限らないこの講義に置いて、関心があるからとった、というよりは、単位確保や友人がいるのでなんとなくとった学生が目立ち、シラバスだけで講義の魅力をPRする難しさに直面した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	達成度自己評価の項目に置いては、例えば「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」において21名中③11名④11名となっており、詩の技法や鑑賞方法などの明確な目標は達成したものと思われる。また、成績は、秀46%、優27%、良15%、可11%不可0%となっており、ほとんどの学生が優秀な成績を収め、あやふやな選択動機のものが多かった割には、脱落者や不可となったものがひとりも出なかったのは喜ばしいことであった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の専門展開科目であるこの授業は、ほとんどの学生にとっては選択科目となっており、基本的に2年時で英語文学入門などで文学が好きだった学生が選択してくる。また教職をとる学生にとっては必修であり、万人に向けたレベルよというより、英語を専門とした社会人に通用するレベルの講義とした。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	自由記述にレポートの負担が大変であったという回答が目立ったが、「大変だったが、次第に内容について理解が深まっていった」などと、肯定的な意見が多かった。文学の授業なので予習復習の時間が沢山いるというスタンスは今後も変わらないが、ある学生が「レポートや予習は大変でしたが、やって損になることではないので良かったと思う」と回答してくれたようにレポート提出の際にこちらからできる教育の質の向上(課題の内容や、添削のフォロー)を今後も追求したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	最後の5回の授業の後半をオーラルテストに当てた。これは詩を暗記するのに絶好の機会であり、どの学生も内容自体はよく暗唱していたが、発音がいまいの学生が何名かいた。せっかくオーラルテストの内容を扱ったCDが図書館にあり、聞きに行くことも進めたのであるが実際に足を運んだ学生は22名中9名にとどまった。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	大塚 由美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語レトリック論	3・4	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期「レトリック入門」でとりあげた作品の後半部分に取り組んだ。授業目標は、前期に続いてオーセンティックな英文に触れてもらい、社会問題、地球環境問題等の重要な問題を含む作品内容について受講生が深く考え、クラスで話し合いをしてもらうことである。 多くの受講生が真面目に予習をし、適確な意見を述べ合っていた。また、クラスメートの意見に耳を傾けることで、さらに発展的な意見を述べる傾向が生じ、お互いに刺激を受け合う事で、自分の意見にも広がりを持たせていけたようだ。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学期中、欠席ゼロの学生もあり、欠席者の少ないクラスで、多くの学生が予習をして授業に臨み、意見を発表して、同時に他の学生の意見にも耳を傾けていた。試験結果は、80点以上は73%、60点～79点が27%であり、試験を受けた全員が合格という結果だった。「自由記述」で指摘されたように、プレゼンと試験の両方が課されたため、too much だったかもしれない。しかし、プレゼンの内容及び、試験の答案内容共に、合格レベルに達していて、よく頑張ったと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	一流作家の作品を取り上げ、そのオーセンティックな英文を読み、作品分析を行い、意見を述べ合うことを目標としているので、授業の予習は絶対必要条件である。全員が前期からの受講生なので、作品の理解力が個人差はあるものの、総じて高まっていた。深い思考を促すような指導を心がけた積りだ。 オーセンティックな英文であることに加えて、地球環境や弱者への偏見などの社会問題を認識していく主要登場人物が受講生とほぼ同年代の女性であるということで受講生に考えて欲しいテーマを含んでいると思い、選択した。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

欠席も少なく、作品の読みも、深まり、クラスメートの意見に耳を傾けて、更に発展させた意見を述べる場面も度々あった。アンケートの自由記述ではかなりの量のコメントを書してくれた学生もいて、授業の中でそれらの意見を述べてもらえるような環境を整えられなかったかと、残念に思うし、顔がわからない匿名のコメントではなくて直接話を聞いてみたかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業内容の理解度は、「難しい」との評価もあったが、ほとんどのプレゼンや期末試験の答案の内容は、深い理解を示していたことを感じさせた。「思考判断」については、全員がレポートを提出して、自分の考えをまとめて発表することができた。「知識」に関しては、成績が80点以上の学生が73%であり、残りの27%の学生も合格点をクリアしており、授業目標達成という点では、まずまずと理解している。

学科	英語学科
氏名	八尋 春海

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
映画で学ぶ英米文化	3・4	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	同じ名前の科目が観光文化学科にもあるが、ここでは英語学科ということを意識して、授業時にはなるべく英語での表現を取り入れるようにした。前年度は、欠席が目立ったので、今回はなるべく声かけをするようにして、コミュニケーションを深めて出席率を上げるようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	これまで、10年ほど英語学科で科目を担当してきたが、「未履修」を除き、初めて全受講生が単位を取得できた。学生も授業が刺激になったようである。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目の位置づけは妥当であると思われる。
--	----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

残念ながら、今年度は開講されないので、改善の機会はない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

この科目の開講最後の年にふさわしく学生もよく理解し、単位を取得した。昨年度でこの科目の開講は終わった。

学科	英語学科
氏名	森谷 裕美子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文化人類学	3・4	後期	選択	はい	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	文化人類学は、異文化を正しく理解する方法を学ぶ学問であるため、具体的な事例を多くとりあげて講義を構成した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	そもそも履修した学生のほとんどが、講義内容にはあまり関心がなく単位をとることを目的としているのであって、遅刻・欠席がとても多い。このような状況では、一部の意欲的な学生を除き教育目標が達成できるとは思えない。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本来、文化人類学を専門で学ぶ学部を除き、文化人類学は基礎教育科目として1、2年生が受講する科目である。なぜ英語学科の3、4年生の履修科目としているのか私自身、理解できていない。したがって内容も教養としての一般的な文化人類学を行っている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

板書が多いとか、わかりにくいとの記述があったのでその点については改善したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

文化人類学という科目の性質上、予習・復習が必要な講義をしていない。そのため学習量の評価、学習のための情報利用、図書館・インターネット利用などを評価することはできない。それを学生にさせることが必要だということであれば、課題を出したり、試験の形態を変えるなどして対応せざるを得ない。また、遅刻・欠席については厳しくし、講義に出席させるようにしたい。

1. 基本情報

2. 観点・DP上の位置

3. 授業準備について

①本授業は、英語学科の選択授業であり、その内容も英語とは直接関係ないリサーチ・メソッドであったため、本授業内容に対する受講生の基礎知識はあまりないことを前提としている。また、受講生の受講動機をみても、「単位数を確保するために受講している学生が全体のおよそ三分の二を占めている。このような受講生に対し、本授業では、卒業論文等、受講生自身が実際にデータを収集しなければならなくなった場合に、自力でデータ収集するための知識と技術を習得してもらうことを目標に授業を計画した。

②多くの受講生にとって、統計学はそれほどなじみのある学問ではないことをふまえ、本授業では、毎回、グループワークをとりいれることにより、受講生が主体的に授業にかかわる機会を設けた。グループワークを通じて、授業でとりあげた内容を、受講生が実際に活用することができるようになるよう心がけた。

4. 学生の目標達成状況について

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

毎週の課題の平均得点率は74%であった。また、到達度に対する受講生の自己評価では、平均値が2.6～3.7の範囲に分布していた。特に、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」との問に対する受講生の回答の平均値は3.7であり、本授業を受講することによって、受講生は、リサーチ・メソッドについての理解をある程度深めることができたと考えられる。しかしながら、最終レポートの平均得点率は59%であり、十分に高い得点であるとは言えない結果になっていた。このことは、本授業の受講生が、自分たちが実施した調査や実験の結果を十分に読みとることができるだけの力を身につけることができなかったことを示しているものと思われる。

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

＜授業評価の指標＞
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本授業は、英語学科の授業ではあるものの、その内容は「リサーチ・メソッド」であり、受講生にとっては、本授業を受講する意義が明白ではなかった可能性が考えられる。このことは、「単位数を確保する」(67%)という受講動機が最も多かったことにもあらわれていた。しかしながら、リサーチ・メソッドについての知識と技術は、英語学や英語教育で卒業論文を執筆する際には必要となる知識・技術であるとともに、教職に就く場合にも身につけておくべき知識・技術である。受講生の自己記述にも、「めざしている資格試験の問題にも出て来ると、とても勉強になった。」という回答があることから、このことは裏づけられるものと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	本授業の内容は、受講生にとってなじみが薄いため、授業実施にあたっては、毎回、グループワークを取り入れ、受講生同士が話し合うことによって、授業に対する興味・関心を高めることができるよう心がけた。授業の質評価の中の「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が与えられていた」という設問に対する平均値が3.8と比較的高いことから、このような試みについては、少なくとも形式的には受講生に理解されていたものと考えられる。また、受講生の自由記述にも「授業内容は難しかったが、形態は好きでした。」との回答からも、このことは裏づけられるものと考えられる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	毎回グループワークを取り入れたことにより、受講生は、ある程度楽しみながら、リサーチ・メソッドの基礎的知識と技術を身につけることができたと考えている。しかしながら、本年度はデータ収集方法についての知識と技術の習得に力を注いだことにより、得られた結果を読みとる力については、受講生に十分身につけさせることができなかった。このことは、最終レポートの平均得点率が59%とそれほど高くなかったことにあらわれている。今後は、データを読みとる力を習得させる方法についても工夫していく必要があると考えられる。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性研究	3・4	後期	選択	いいえ	44

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①映像教材を媒体に、台詞や分科背景、欧米の女性たちの研究を行った。 ②授業の7回目に中間テストを期末テストと同じ成績の比重で行い、試験勉強を分割したことで、学生の学習意欲を喚起した。 ③毎回の授業でレポートを課し、自分の力で考える行動を促した。 ④ほとんどの学生にとって選択科目であったが、選択動機は「関心のある内容である」が56%と一番多かった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績分配は、42名中、秀18名、優7名、良7名、可4名、(退学や留学も含め)不可6名であった。秀の中には100点の学生も2名いて、優秀な学生が半分以上を超えるものの、不可やギリギリで良や可になった学生もいて、成績の二極化が起きた。到達度自己評価では「(2)知識を確認、修正したり新たに得ることができた」では平均値3.9と高い評価を得たが、「(10)職業選択の参考になった」では3.0であった。映像資料の内容が大卒の女子が初めての就職先で奮闘するという内容であった割には、自分に当てはめて職業選択のヒントとならなかったのは残念である。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	旧カリのこの講義は、新カリでは継続されることのない科目であるが、成績の二極化は見られるものの、映像資料を見る学生の表情は生き生きとしており、各人の英語レベルに応じての鑑賞を行っていたと思われる。技能表現の評価はそのレベルに応じた結果となったが、知識理解や意欲関心は刺激されたと思われるので、内容的妥当性には問題はなかったと結論づけたい。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	レポートの特性から図書館やネットでの検索を促すものではなかったので、6図書館利用は図書館の利用(1)データベースの検索(2)は利用したが0名などとなったが、とにかく映像資料とテキストを読み込むことが目標であったので問題はないと思う。また毎回の配布資料に女性学の記事を載せたが、学生が授業の合間に読むという形で、教師が記事について深淵なコメントを発する機会がなかったので、今後は少しは時間を割きたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	テキストをペーストした授業の予習復習を不可欠なものとする授業であっただけに、④学習量の評価では、(1)授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたかでは35名中①2名、②6名、③4名、④11名、⑤12名などと、半分以上の学生が積極的に自習を行った姿が伺える。(しかしここでも二極化が起きていることに注目したい。)来年度からは廃止となる科目である。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
小学校英語教育研究	3・4	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 受講生は、前期の「小学校英語教育入門」を受講していた学生であるので、ある程度共通の知識があることはわかっていた。よって、それらの知識をもとに、さらに理解が深められるよう課題などを設定した。 ② 半分以上の学生が受講動機として「単位数を確保する」の項目を選んでいる一方で、「必修である」「資格取得に必要である」という学生も半数近くいるので、最低限必要な理解と、発展的なものとの区別がわかりやすいように授業を準備した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	最終的な成績の平均値は78.5点で、ほとんどの学生が標準的レベルに達し、再試対象者はいなかった。成績から見ると多くの学生が理想的レベルに達しているのに、到達度自己評価については、「まあまあそうだと思う」と答えた学生が圧倒的に多く、これは授業中に学生に達成感を味あわせることができなかったからかもしれない。学生が達成感を感じやすい活動を取り入れるなどして、授業の実施の仕方を工夫したいと思う。					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみての内容的妥当性 受講動機に大きな開きがあり、動機づけに苦慮する面があるが、最低限必要な部分と発展的な部分とをわかりやすく示すなど工夫し、成績評価で多くの学生が達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみての内容的妥当性 成績評価から学生の達成度に若干の開きが見られたが、学生も一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。 ③ まとめ 以上から、内容的には妥当であったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、どの項目についてもほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、ある程度肯定的に受け止められていると思われるが、改善点もある。「口頭、文書などなんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について、およそ3割の学生が「少しそうでないと思う」と回答している。学生からの質問には適宜答えてはいるが、このような結果になっているということは、質問するのが難しいと感じている学生も一部いるということだと思うので、授業の方法を改善していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	半数以上の学生が単位数の確保のために履修している一方、将来の職業選択のための必要性から受講している学生もいるため、学生のレディネスや動機付けに大きな開きがあり、授業運営が難しい面があるが、ほとんどの学生は一定の成績を収めていることから、目標は概ね達成できた。しかしながら、質問に対して答える機会などは十分ではなかったため、この点については、来年度に向けて授業の在り方を工夫していきたい。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習	3	通年	必修	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①通年の必修科目であるため、6名の「受動動機」は100%になっている。(登録者数は7名であったが、1名出席不良で途中から資格がなくなり、最後は6名で終わった) ②ゼミ生募集段階(前年度の10～11月)で、学生には授業内容の公開をして募集しているため、受講生はそのことを前提に履修している。このため、教員主体の多くの課題が課しやすくなっている。以下の③・④は前学期の強制課題である。 ③リスニング力強化のため、これまで長年継続してきた強制課題(60分テープで10本分)を前学期終了時まで毎週課すことにした。 ④総合的教養力養成のため、日刊紙の筆写(編集手帳、天声人語など)を課し、自己分析や面接対策の準備に備えることにした。 ⑤就職活動に機敏に対応させるために、毎週火曜日の読売新聞日刊より「就活ON」の輪読・解説を施すことにした。 ⑥後学期は上記⑤は継続するが、④は各自の選択課題とすることにした。 ⑦教養力・論理的思考力・プレゼンテーション力などのブラッシュアップを目指して、知的書評合戦ビブリオバトル(Bibliobattle)へチャレンジさせることにした。 ⑧自己分析力・表現力などの強化のために、就活に有効な模擬面接へチャレンジさせることにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①通年科目であるため、学年末の達成度評価において、最終的な合格者の成績の平均値は83点でまずまずの数値となったが、不合格者を含めた場合には79点にとどまった。内訳は、秀2名、優4名、不可1名であった。 ②30週の出欠状況は、7名中6名はすべて97%、1名は60%であった。 ③到達度自己評価の10項目では、数の多い順に並べると、「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」「まあまあそうだと思う」の範囲内にあるが、(1)の自分なりの目標を達成した、という項目においては、「少しそうでないと思う」者が2名いた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本教科は「演習・研究」の中の科目で、3年次必修の通年科目(2016年度履修生より「専門演習Ⅰ・Ⅱ」に変更)であるため、授業回数は30回開講される。その中で、学科のCP-5に明示されているように、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置することになっており、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 DP1～5における9項目に関しては、ゼミ担当者の授業の運び方によって流れは若干異なる可能性は出るが、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」のいずれの領域の内容も網羅できるような授業体制で臨んでおり、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の進め方に関しては、通年科目であるため、1年間の計画性を念頭に入れているが、区切りをつける意味でも、前学期・後学期と区切った方が授業は進めやすいと感じている。単位数もこの学年まで、通年で2単位であるが、内容的には4単位分は十分に消化している。 ②授業に関する学生からの意見は示されていない。 ③授業の質評価の5項目では、受講者の8割以上が「わりにそうだと思う」と「かなりそうだと思う」と答えている。 ④学習量の評価において、予習・復習の面では皆1回～4・5回の範囲であったが、授業の課題以外の学習に取り組んだ者は2名で、全く取り組まなかった者が4名いた。 ⑤情報利用では、シラバスを参考にした者としなかった者はほぼ半々であった。 ⑥図書館利用は、まだ卒論作成の段階ではないためか、利用した者より利用しなかった者の数が多かった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①DP1～DP5にある9項目を満たすためには、総合的な教養力と幅広い応用力を念頭に置いた指導の仕方が必要であろう。そういう意味では、全体として「やや達成できた」とした。 ②30週で2単位は少なすぎるため、次年度から(すなわち現3年生)は「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」に分けて、それぞれ2単位を与えることになっている。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習	3	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The focus of this zemi class was on researching topics, presenting on them, then discussing them.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	This was a good class of students who generally worked well to achieve their goals					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP1, DP3, and DP5 were achieved. DP2 needed work as they relied on others for leadership, and DP5 was also weaker than it should be because of this.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Nothing in particular.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Nthing in particular.

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習	3	通年	必修	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	前期は『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の3つの力を培うアクティビティを継続して行った。後期は、卒論執筆に向けて「ロジカル・ライティング」のし方を学び、研究のデザインの仕方・進め方などを具体的に学び、各自の研究テーマを設定した。前期・後期ともに、演習形式で授業を進めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと判断される。必要な情報を「宿題・課題」として与えていたため、「学習のための情報利用」「図書館、インターネット利用」は特に行われていなかったが、この点については特に問題ないと考えられる。自由記述で10名は授業に関して高い評価を与えているものの、1名が「眠くなることが多く、もっとアクティブに動くような活動がしたい」と述べており、「達成された」との判断には至らなかった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、社会人基礎力の育成と、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

自由記述で10名は授業に関して高い評価を与えているが、1名のみが「眠くなることが多く、もっとアクティブに動くような活動がしたい」と述べている。この点に関しての原因究明が求められていると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、社会人基礎力の育成と、アカデミック・ライティングのスキルの向上をめざした本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。学生全員を同じように満足させる授業をデザイン・運営することは決して容易なことではないが、その実現を目指し努力を続けていきたい。

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習	3	通年	必修	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 本科目は3年生の必修科目であるが、幾つかの選択肢の中から主に学生の希望に基づいて履修することになるので、受講している学生の興味関心は比較的似通っていると考えられる。事前に提出してもらった履修の動機についての書類をもとに、授業の内容ややり方について工夫した。 ② 大学で学修していることと、社会とのつながりを身をもって体験できるように、国際的な交流の機会や市民向けのワークショップの運営を学生自らが体験出来る機会を設けた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学外での企画運営や授業での発表等については、全員が標準的レベル以上に達していた。しかしながら、学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生がすべての項目について肯定的な回答をしているものの、多くの項目について、「少しそうでないと思う」「全くそうでないと思う」と回答している学生が若干名いる。これは学生が達成感を味わえなかった面があることを表していると思われるので、学生が自らの成長を実感できるような授業の在り方や評価の方法を考えたいと思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」という項目について「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。それ以外はすべて肯定的な回答である。評価について、シラバスを見せながら説明はしているものの、詳細についてはわかりにくい部分もあったかと思われるので、来年度から工夫したいと思う。 図書館の利用については、図書館の利用が必要な課題を設定し、図書館での研修も実施したが、2名の学生が「利用しなかった」と回答している。さらにきめ細やかな指導が必要かと思われる。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	来年度の卒業研究へと続いていく科目であり、卒業論文を書くために必要なことを学ぶ場である。そのために必要な知識や技術等を身につけられるよう授業を実施したが、学生の自己評価は少し低めであった。学生が自らの学びを明示的に感じられるような授業の内容や方法を工夫していきたいと思う。具体的には、書くことについての指導が十分行われていなかったと思うので、定期的にレポートを提出してもらい、それにたいするフィードバックも丁寧に行っていききたいと思う。その際には、図書館利用を促すなどの工夫をしたい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門演習	3	通年	必修	いいえ	3

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この授業は、受講生が3人で、いずれもそれぞれの理由で学科における学修活動の主流から外れている学生達である。成人である学生を除く、残り2名は、ともすれば学生生活を継続すること自体に不安を抱えており、授業にあたっては、とにかく彼女たちに出席を促し、ゼミの場に姿を見せるようにすることに心を砕いた。そうした中で、前期は英語学習の楽しさを思い出させる内容の授業を行った。準備としては日常的によく使用する表現を集めた本を使い、それをすぐに口からしゃべったり、聞き取る練習をした。後期は、卒業要件最大の課題である卒業論文の作成に向けて、動機付けを行い、1年後には余裕を持って卒論を完成することを目標にさせた。図書館で、レポート作成方法のDVDと一緒に鑑賞し、その後、それぞれの立場で何をどのように進めていくかの解説をした。毎回、可能性のあるテーマについて発表ができるように指導した。授業時間以外には何も取り組まない傾向もあるので、授業以外の時間にメールやLINEなどで細かに連絡をとり、遅刻欠席がないように促したり、学修活動に悩みがないかなど細かくコミュニケーションを図った。必ずしも「授業準備について」という項目とは合わない内容を記したが、ゼミの概要としてはこのような報告となる。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成人以外の2名の学生は、4年生への進学断念、最悪の場合進路変更して退学などの可能性もあった。そうしたなかで、まがりなりにも授業に規定回数以上出席し、出席した際にはこちらの指導に素直に応じて、卒業論文のテーマ決めに向けて彼女らなりの努力をした。その点は評価できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	英語学科生として、英語学及び英文学の分野の中で卒論論文のテーマを考えさせているので、その点ではDPやCPに即していると考え。また、2年間のゼミの最終目標は卒業論文の完成・提出であるので、指導内容は適切であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	3年生におけるゼミの選択において、全く見知らぬ教員のゼミに配属される、または希望を出さない結果、事務処理上そうした教員のゼミに割り当てられるのは、教員の入れ替わりがある以上避けられないことである。それはそのゼミ教員にとっても同じ難しさを抱えることになるがそれも致し方ないことである。そうした状況の中で、他の授業にも出席が順調に続けられない学生達が1年を通してこの授業に出席し、彼女らなりの努力をする場を提供できたことは、評価に値すると思う。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	与えられた状況の中で最大限の工夫と努力を行い、学生達もついてきてくれた点は評価に値すると思う。思慮の浅い指導や接し方をしていたならば、既に2名は退学していた可能性もあった。後期終了後も、春休みの間に細かな連絡を取り、4月以降順調なスタートを切ることができるように指導続けた。3月から就職活動も本格化するなかで、彼女らが卒論制作と就職活動という2つの大きな山にどのように取り組み、無事卒業できるのか、最後まで見守るつもりである。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①3年次の「専門演習」を引き継いだ必修科目であるが、登録者数は12名で、他ゼミと比較すると多く、資料作成等にそれ相応の時間を要した。 ②テーマである「英語音声学の見地からの英語力強化と個人総合力強化戦略」を根底に据えながら、準備を行った。 ③4年次の最終目標は主に「卒業論文」を完成させることにあると考えるので、9個のDPを頭に描いての指導準備をした。 ④指定している「論文&レポートの書き方」に加え、「説得する文章力」も輪読書に加えた。 ⑤最終アウトライン確定時までには上記2冊を読み終える準備を整えた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①通年科目であるため、学年末の達成度評価において、合格者の成績の平均値は85点(内訳は秀3名、優9名)となり、目標としていた数値は達成された。 ②30週の出欠状況における出席率は、12名中97%2名、93%4名、90%1名、87%1名、83%2名、80%1名、63%1名となり、1名を除けば比較的高かった。 ③到達自己評価の10項目で、全てをトータルした数値では、多い順に、「かなりそうだと思う」44名、「わりにそうだと思う」37名、「まあまあそうだと思う」26名、「少しそうでないと思う」3名という結果に至り、受講者の到達度自己評価は高いと判断できる。 ④自由記述における自発的な学習量の評価では、「新聞や本を読むことによる知識の修得」「図書館での勉強」「TOEICなどの英語の勉強」「卒業論文の作成」などが記載されている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CPカリキュラム上の位置付けからみても内容的妥当性 本教科は「演習・研究」の領域にある科目で、4年次必修の通年科目であるため、授業回数は30回開講される。その中で、学科のCP-5に明示されているように、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を修得するための科目を配置することになっており、内容的には妥当であると考え。 ②DP1～5における9項目に関しては、ゼミ担当者の授業運びによって流れは若干異なる可能性はあるが、「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度」「技能・表現」「のいずれの領域の内容も網羅できるような授業体制で臨んでおり、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①担当教員への意見は5件あったが、そのうち4件は好意的な内容で、残り1件が「ほとんどの授業時間は卒論作成の下調べや準備に充てられていたので、もう少し英語に関すること触れたかったです」とあったので、参考にしたい。 ②授業の質評価における5項目では、「わりにそうだと思う」27名、「かなりそうだと思う」26名でほぼ互角、「まあまあそうだと思う」は2名となっており、質評価は高い数値が出ている。 ③情報利用の4項目に関しては、参考にした者と参考にしなかった者の割合がほぼ半々であった。。 ④図書館利用の3項目に関しては、利用した者27名、利用しなかった者9名となっていて、前者が圧倒的に高いが、後者の数字は予想以上に多かった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①DP1～DP5における9項目を満たすためには、3年次同様、総合的な教養力と幅広い応用力を念頭に置いた継続指導が必要と考えるが、本科目における受講者からの反応は好意的なものが多く、全体を通して「達成された」とした。 ②卒論指導に偏りすぎることなく、もう少し英語に関することに触れてほしいという意見は尊重したい。 ③図書館を利用しなかった者の数を減らす努力をする必要がある。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This semester was mostly taken up with job hunting and writing a graduation thesis. All nine students got a job and all of them finished their thesis on time. Three students presented there thesis in front of the English department students and teachers.The students seemed to benifit from their professor's support.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	どちらともいえない
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The students grade was mostly determined by their work on their thesis and the end results					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	The final seminar was a prepartion for the student going into the world on their own. They were responsible for their own work and use of time. Some waited until the last minute to prepare their papers and thus learned a valuable lesson about procrastination.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I will not be teaching this class again

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

I will not be teaching this class again.

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This class was focused on using presentation skills in various situation. However, for 2015 the biggest focus was on thesis writing and employment.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on their overall class performance, thesis writing, and attendance.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All DP targets were achieved.
--	-------------------------------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Nothing in particular

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

Nothing in particular

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授業という形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度の高い授業であったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の内容的妥当性は、高かったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今学期は受講生が6名だったため、各学生の指導時間が比較的多めにとれた。来年度以降、受講生が増えた場合でも、学生を指導する時間ができるだけ多く取れるように努めていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケート、自由記述から、本科目の達成度・満足度は、高かったと考えられる。。来年度以降、受講生が増えた場合でも、学生を指導する時間ができるだけ多く取れるように努めていきたい。

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
卒業研究	4	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 卒業を前にした仕上げる科目であるので、あらゆる面についての総合的な力を身につけることに重点をおいて授業を行った。 ③ 卒業論文の執筆については、全体でフィードバックを行ったり、ディスカッションを行う部分と、個別に指導する部分に分け、効果的な指導ができるよう心がけた。 ② 就職活動と卒業論文の執筆の両方がスムーズに進むように、昨年度から卒業論文の準備を始め、本授業では論文執筆のためのスケジュールを提示した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	全員が標準的レベルに達し、卒業論文も規定に沿ってしあげることができた。また、学生の学生の到達自己評価もすべて肯定的な回答である。また、全員が図書館、データベース、インターネット等を授業の課題のために利用したと回答している。学生の卒業論文や課題もそれを反映したものとなっている。よって教育目標はやや達成されたと思われる。しかしながら一方で、卒業論文の執筆が当初の計画通りに進めることができなかったり、論考が十分だと言い難い面がある学生もいた。3年次から論理的な思考を深めたり、書く技術を高めたりする指導が必要であると思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 学生の興味関心に沿って授業を選択しているため、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、全員が標準的なレベル以上に達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、全員が肯定的な回答であったが、実施日に欠席者が多かったため、この点のみをもって改善課題がないとはいえない。授業の内容や卒業論文の指導は丁寧にやってきたつもりだが、卒業論文については締め切り近くになって、大幅な変更が必要が学生がいたり、最後のまとめがなかなか書けなかったりと、課題が残っている。卒業論文については、学生が実際に執筆を始める前のテーマ設定やアウトラインの決定などの段階で、もう少し踏み込んだ指導をしていく必要があると思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	学生の習熟度に大きな開きがあり、全体での活動に制限が加えられることがあったので、学生が互いに助け合える場をもっと作るなどしたほうが良かったと思う。卒業論文については、面談やメールを利用して個別での指導をかなり実施した点は良かったと思うが、互いに学ぶという観点から、全体での指導をもっと効果的にできたよ良かったと思う。このような点を改善するために、来年度は全体と個別での指導のバランスをもっと工夫したいと思う。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教職実践演習(中・高)	4	後期	選択	はい	4

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。
---	-----------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	学生の授業評価アンケート、自由記述から、達成度・満足度がおおむね高い授業であったと考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケート、自由記述から、内容的妥当性に関しても、おおむね高い授業であったと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

第14回目、15回目の授業で、主担当を務め、学生によるポスター発表の場を設けた。この形式に関しては、来年度以降も行っていきたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた結果、おおむね満足できるレベルの授業のデザイン・運営ができたと考えている。他の教員との協力をさらに進め、よりよい授業の実現に努めていきたい。

学科	英語学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	教職課程科目であるため、全体的に学生の受講動機のレベルは高いと考えられる。ただし、履修人数制限のある学科に比較すると学修への動機付けが高まっているとはいえない。 英語学科は将来学級経営にかかわる可能性が高いので、本講義の内容を学校組織という視点からとらえなおすことができるように工夫を行った。特に地域や仲間集団のような教員から見えにくい領域に目を向けてもらえるよう心がけた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	全学科平均(66.1)に対し、英語学科平均(66.3)であり、平均的な成果が見られた。 出席状況も半数以上が一度も休んでおらず、最も多い学生で2回欠席であった。 合格者平均と不合格者平均の差が34点あり、不合格者4名について問題がある。特に授業中の説明をきちんと聞かなければ解けない問題での失点が多いことから、受講態度に問題があると考えられる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教職科目であるため、学科DPと直接連動する部分は少ないが、英語技能を生かした専門的職業に求められる資質能力の一部を構成する科目である。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生にとって自己の体験と比較しやすい分野(児童期の仲間集団経験など)と比較し、そうではない分野(社会的発達概念と社会化論の関連など)は理解度が低かった。本授業ではこの部分が導入に相当するため、教育心理学など隣接学問を援用する等工夫を行ったが、興味関心の点で工夫の余地があると考え。教師の立場から一旦離れて教育現象を理解するアプローチに慣れてもらうため、これまで以上に事例検討や統計データとの照合など、先入観を問い直す具体的教材を工夫したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	合格者の内、秀が1名、優が1名という結果であった。次年度は、理解度・参加度を上げる工夫を通じて、より優秀な成績の割合を増やしたい。また、不合格者の平均が低い原因がどこにあるのかを授業期間中に把握する方法を検討したい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87.0点であり、再試対象者は0名であった。ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。 学生による到達度自己評価は、1名が「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」という項目について「少しそうでないと思う」と回答し、各1名が「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」「職業選択の参考になった」という項目について「全くそうでないと思う」と回答しているが、他のものは「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、半数以上のものが「わりにそうだと思う」と回答しているため、この点からも教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考えるが、学生の到達自己評価については、上記のように若干名否定的な回答をした者がいるので、学生が自らの学びをはっきりと自覚できるような工夫をしたいと思う。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、すべての項目についてほとんどの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、なんらかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」について、それぞれ1名「少しそうでないと思う」と回答している。授業の中で学生が話す機会は多くはなかったため、このような結果になったと思われるので、来年度からこの点について改善したいと思う。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	年度によって受講生の数や教職が第一志望の学生の数にばらつきがあるため、学生の状況を考慮して授業の方法を工夫する必要があると考えている。この科目は「英語教科教育法Ⅱ」「英語教科教育法Ⅳ」へと続いていくので、今回明らかになったことを踏まえ、学生がより参加できる機会を設けるよう授業の方法について工夫していきたいと思う。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅲ	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	発音の教え方、「教室運営」のし方、テストの作成方法、アーティキュレーション(連携)の作り方など、英語科教育法Ⅱでカバーしなかった内容に焦点を当て、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら授業を進めた。その結果、英語科教育法Ⅱと英語科教育法Ⅲを受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートでは高い評価を得ており、そのことは自由記述でも裏付けられている。英語科教育法Ⅱで見られた「プリントの量が膨大」「量が多すぎる」というコメントも、今回はなかった。。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	授業評価アンケート、そして自由記述の内容からも、学生の満足度が高い授業であると判断されるので、内容的妥当性は高いと考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示ください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については特に問題ないと思われる。「具体的」「実践的」であることに対する評価が極めて高かったので、この点に関しては継続していきたいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

今回初めて担当した授業であったが、授業のデザイン・運営は良好であったと考えている。さらに「具体的」「実践的」であることに努めて、今後の授業を発展させていきたいと考えている。

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
英語教科教育法Ⅳ	3	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	この講座は教職課程の必修科目であり、学生の受講動機は比較的高い。また、教職に関する科目を全員が履修しているため、共通理解の部分が多いので、ある一定の知識があることを前提に授業を実施した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85.3点であり、再試対象者は0名であった。ほぼ全員が理想的レベルに達しているため、教育目標は達成されたと考える。 学生による到達度自己評価は、どの項目についても全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しており、半数以上のものが「わりにそうだと思う」と回答しているので、この点からも教育目標は達成されたと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は教職課程の必修科目であり、学生の目標は明確で、授業に対する意欲も高い。学生の成績についても、ほぼ全員が理想的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績が比較的高かったことから内容的に妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、どの項目についても全員が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答している。一方で、ほぼ毎回課題があり、学生が事前に準備して発表しなければならない機会があるにも関わらず、図書館の利用について「利用した」と回答している学生は1名しかいなかった。学生の課題に取り組む姿勢と成果を向上させるために、図書館の利用について、具体的に指導していく必要があると考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

年度によって受講生の数や教職が第一志望の学生の数にばらつきがあるため、学生の状況を考慮して授業の方法を工夫する必要があると考えている。来年度履修する予定の学生の状況を考慮し、今回明らかになったことを踏まえ、学生がより参加できる機会を設けるよう授業の方法について工夫していきたいと思う。

学科	英語学科
氏名	大黒 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育相談(カウンセリングを含む。)	2	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	授業の実施にあたり、大切にしていること:教科書的に教育相談の基礎知識を与える事も大切である。しかし、それだけではなく、より実践的な内容の授業にしたかったので、私がスクールカウンセラーという仕事を通して学んだ事、子どもや保護者の現状、現場職員の様子などを伝えるように心がけた。したがって、演習問題の中に事例も多く含み、講義を聞くだけの授業ではなく、「考えさせる」授業を行った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		やや達成された		達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	学習到達度自己評価の結果を見ると、最も高い項目は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つ事ができた」で、3.5～4.4ポイントで、中央値を上回る得点だった。インターネットを使った授業は行わなかったものの、自由記述の中には、「新聞を読むようになった」「詳細な内容を調べるようになった」といった、自発的、積極的に学習を行う生徒もいた。また、学習量の評価として、「ボランティア活動で高校生と触れ合う」学生もあり、教育相談についてより積極的に理解しようとする態度を形成していた。思考判断については、授業内で事例検討を行い、「もしあなたが養護教諭として保護者から相談を受けたら、どのように対応するか」といった演習問題を行い、養護教諭としての判断力を向上させる取り組みを行った。その演習については学生のほとんどが、中学校や高校の現状を知らない為に、大変役に立ったという意見を頂いた。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機を見ると、資格取得の為に必要であると回答している生徒がほとんど(76.9～90.9%)である。そのことから、この講義の重要性が伺える。いじめや不登校、非行問題等、学校内では様々な問題が起こっており、養護教諭を目指す学生はこの講義を受ける事によって、学校の現状を知ることができるように工夫した。以上のことから、内容的妥当性には問題ないと思われる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準が明らかではなかった」という項目が、平均点3.5程度と低かったので、特にテストについては明確に学生へ提示しようと思う。模擬テストなども作成する予定である。また、自由記述の中に担当教員への意見として、「実際にあった事柄を聞けて教育の難しさを感じることができた」とあるが、確かに教育は難しいものであるが、それ以上に楽しさもあると思うので、その教育の楽しさについても学生に学んでもらいたいと思った。次回は、そのような事例も盛り込んだ講義内容にしようと思う。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	教育相談の授業では①基礎知識の獲得、②応用力(事例解決の思考判断)、また③実技(カウンセリング能力)を学ばなければならない。受講する学生が多いので③の実技については思う様に時間が取れていないのが現状である。次年度は、カウンセリング能力を向上させるために、ロールプレイやカウンセリングの練習の時間も作りたいと思う。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English II (aクラス)	1	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Againin the second semester of this Oral English course,used the textbook “Four Corners: Book 1”, and the focus was on building students skills in English. Each unit of the textbook covered a different topic, and it took 2–3 weeks to complete the units We spent more time on speaking activities to improve fluency. We worked on vocabulary building, and how to use that vocabulary effectively. We also worked on the four skills of reading, listening, writing, and speaking.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された		達成された	どちらともいえない	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	In addition to other criteria the second semester all students composed and delivered a three minute English speech. Again students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). Students did better on the tests than in the first semester. For the final assessment, grades ranged from 82% to 97% with an average of 92.06%. In CHleru e-Learning, all students except 2 reached their monthly targets of 300 miles, and in Word Engine 200 correct responses each week. In Word Engine, analysis of the data shows that students learned an average of 285.68 new words (range 95 – 619)					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students in Oral English showed a strong attitude towards learning and felt both DP3 and DP4 were achieved. There were very few problems with absences, participation in class was always strong, and homework was mostly done. For DP1 and DP5, this semester we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did make significant gains.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

Some new goals are: 1. More oral practice through games and activities. 2. The use of music as a warm up activity.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

We need to focus more on performance based task so we can actually assess the students fluency levels.

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English II (aクラス)	1	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught “Communication”. We used the textbook “iTravel” (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in two e-learning programmes: CH1eru, for developing general skills, and Word Engine, for building vocabulary.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された	やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students did well in all assessment areas (attendance, classwork, presentations, final test, and e-Learning). There was a lot of energy in the class.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did not make significant gains. The main reason for this was probably that they started with extremely weak skills in all areas, so have many hurdles to cross.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

It is important to continue to build on the students' skill set and encourage them to use the skills they have already learned in communicative manner.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

In this course the biggest hurdle was the textbook. Although the content was acceptable the random nature of the units made it difficult to offer a smooth transition from one topic to the next. It also required a lot of additional material to fill out the program.

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Oral English II (dクラス)	1	後期	必修	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is divided into two sections: Skills and Communication. For my classes, I taught "Communication". We used the textbook "iTravel" (MacMillan Language House) which offers students many chances to communicate using English in fairly authentic situations. During each lesson, students had ample opportunities to create conversations, question and answer each other, practice listening, and perform presentations. In addition, all students took part in the CHleru e-learning programmes for developing general skills. They also participated in our annual Zion Cup English Contest, preparing a speech, practicing it, and trying to achieve success in the department-wide contest.
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on 5 criteria (Attendance 15%, Classwork 25%, Presentations 30%, Final test 20%, and e-Learning 10%). All students scored well in all areas. For the final assessment, grades ranged from 75% to 95% with an average of 83.63%. In CHleru e-Learning, all but 2 students reached their monthly targets of 500 miles. These students were required to do an additional study module to make up for the lost self-study time. For class speeches, all students prepared well and were able to present competent speeches to the class.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In this class, the students worked hard and showed a strong attitude towards learning, so I felt both DP3 and DP4 were achieved. There were no problems with absences, participation in class was always strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, and students were able to make steady gains. The only area of concern in these classes is maintaining a constant and ongoing study discipline. Students often use a leaps and bounds approach, whereas small and steady gains will help them achieve much better language competency.
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Our goals for the next academic year include: 1. A stronger focus on vocabulary building, with students being given a word list to master at the beginning of the semester using the online programme “Quizlet” 2. Creation of more supplementary material for all teachers to use in their classes. These would be available in our Moodle CMS. 3. More performance-style activities and assessment tools so students have greater opportunities to communicate in English. 4. A more robust assessment system that evaluates their skills and knowledge, as opposed to the current system which focuses too much on attitude and class performance. 5. Extension sessions after school or during summer vacation to help students who are falling behind other students.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	As stated in #6 above, we still need a stronger system of assessment which better reflects their true ability and progress. Students need to be given a clear set of goals we wish them to achieve, and these would include 1. A set of “I can…” targets for each unit of work, 2. A definitive set of vocabulary items to master, and 3. Performance tasks with clearly defined assessment criteria. Although we don’t wish to get into a similar system of assessment driven instruction as can be found in high schools, we do need our assessment tools to more accurately reflect the progress of each student.
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	Kenneth Maynard Gibson,Jr.

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Oral English II B(c,dクラス)	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Preparation is usually only so so. A few students prepare well, but most just copy from friends and a few don't prepare at all.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Most students did make progress, but only a few made very good progress. A few also made no progress... DP 3 and 4 were OK, DP 1 and 5 were not so good.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Most students worked hard in the classroom. Only a couple didn't really try.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

I'm part time. I don't set the goals or choose the textbooks or make the curriculum.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

I don't know. The evaluation or grading criteria is set by the department, not me.

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Intensive Reading II (Aクラス)	1	後期	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 学生は前期の経験から専ら必修科目の義務感で受講したようだが、課題への取り組みなどにおいて意義を示し、鋭意学修を督励した。 2. クラスの2/5程度に中学における学修事項の復習が必要であったため、基礎知識からの再確認に努めた。 3. 精読・読解だけではなく、情報収集や知識の定着と英語知識の応用力を高めるために英作文、英文メールの課題に取り組むように努めた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	各評価を「やや達成された」としたことは、クラス内の学力に差が大きく、成果に個人差が大きかったことによる。 当クラスの成績素点の平均は66.4(前期71.6)であった。18名中5名が単位取得に至らなかったが、1年次にTOEICスコアで500レベル、英検2級レベルの達成を求めている学科カリキュラムの中で、対応する授業と成績評価を行ったと考える。 授業評価については、上記のようなハードルの高い科目であったが、平均4.0程度であり、しっかり取り組んだ学生については一定の成果が得られたと思われる。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	CP、カリキュラムマップ上の位置づけには特に異議はない。担当として取り組んだ幅広い題材について調べ、自らの考えをまとめる意識付けを行い、将来に向けプレゼン、コミュニケーションの基礎を学ぶという授業内容は、DP1に沿うものであったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	後期科目ではあるが、段階的には前期のIntensive Reading Iと接続しているため、中・高での学修事項再確認について前期、後期の配置を見直し、再配置したい。 また、英語知識の応用力を基礎づけるため、中高の学修事項復習により多くの時間を充てたい。 授業の説明については、鋭意改善を志向しているが、ビジュアルの工夫や板書の改善を更に進めたい。 インターネットの利用については授業内では取り上げなかったが、宿題の課題で数度に亘って実施しており、提出された内容でもインターネット利用の結果が示されていることから、実際には大多数の学生が検索を行ったと理解している。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学期末近づくにつれ理解度が大きく伸びる学生の存在に力づけられるが、その一方で授業内容についていけない、関心を示さない学生への働きかけが、授業外指導を行っても成果につながっていない。「学びたい」という意識づくりと「学ぶことは楽しい」と思えるような働きかけをいかに行うか、ということ課題としたい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	Paul Collett

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Extensive Reading II (Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	The aim of this course was to help students increase their ability to read in English. This involved having students work on developing reading strategies and reading speed in the classroom. Outside of class, students were expected to engage in regular reading homework, with the goal being to read at least 15 books or around 25,000 words at minimum over 15 weeks. Reading process was tracked by using a combination of the Moodle Reader system and the Xreading system to record and track out-of-class progress.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Class assessment was heavily weighted towards the outside class reading component of the course (40%) with the final test contributing 30%, and a couple of small projects and class performance making up the remainder of the grade. Students received weekly feedback on their reading progress, along with guidance and opportunities to improve their performance if they seemed at risk of failing. Final results were variable, with a few students failing the course due mainly to not having completed the required reading component, along with demonstrating a lack of the overall reading skills required to successfully complete the course.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	A new system to assess reading progress was introduced for this semester, which students reported as being easy and convenient to use for the out-of-class reading component of the class. Most of the students who regularly attended class did a satisfactory job.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	The overall goal for future courses is to continue to work on increasing reading fluency, and self-efficacy for reading. A large part of this involves making things easier for students to access and read books at a suitable level, and for both the instructor and student to easily track students' progress. We tested a new online-based reading system for extensive reading that seems to help here, and have seen quite positive levels of acceptance of this system by the students. While quite a lot of time in class has been spent on building up reading speed, there are still issues with limited comprehension of texts, so more focus on such areas as vocabulary building are necessary and will be introduced in future classes.
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	The course is very much focused on attaining certain goals – reading X number of words, or X number of books, but at the same time demonstrating comprehension of the material being read. For some students, the latter part of the goal is overlooked, and they focus on only attaining the numerical outcomes. As in previous semesters, overcoming this kind of attitude is a challenge for the future. Secondly, finding a way to help students who are unwilling to engage in the out-of-class reading component of the course is important, as these students invariably are unable to successfully complete the required outcomes.
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Grammar & Composition II (Bクラス)	1	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 前期で学んだことを利用しながら新たな知識を身につけていく科目であるが、前期の授業である「Grammar & Composition I」の習熟に大きな差があったため、既習事項もわかりやすく解説しながら授業を進めることに注意した。 ② 新しく学んだことの定着を図るため、その表現を使って自分のことを英語で表現する機会を設けた。 ③ 予習の習慣がつくように、すべての学生が予習してきたことについて発表する機会を設けた。 ④ いろいろな場面を利用して復習できるように、スマートフォンのアプリを使って毎回復習できるようにした。 ⑤ 毎時間復習テストを行い、学生への復習への意識を高めるとともに、学生の理解度を把握することに努めた。 ⑥ 復習テストで明らかになった多くの学生がつまづいている点については、毎回復習するようにした。 ⑦ 学生の理解を深め、知識を自分のものとして身につけることができるように、予習として授業の範囲についての質問をメールで送ることを課した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は73.0点であり、再試対象者は3名であった。概ね標準的レベルに達し、理想的レベルに達した学生も多くいたが、一方で再試対象とならざるを得ない学生もいた。到達度自己評価については、ほとんどの学生が「わりにそうだと思う」を選択し、「少しそうでないと思う」を選んだ3名以外は「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答している。基本的な項目でつまづいている学生が若干いるので、これらの学生に対応できるようなワークシートなどを作成し、理解の促進を図りたい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CPカリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、高等学校での学びを大学での学びにうまくつなげるための必修科目である。基礎基本の定着を目指して、基本的なことから丁寧に指導することに心がけた結果、予習や復習の状況や小テストや試験で一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考える。 ② DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績の平均値も高く、学生による知識理解についての平均値も高く、内容的には妥当であったと考える。 ③ まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、1名が「期間内に行うべき学習の範囲や課題はあきらかであった」という項目について「少しそうでないと思う」と回答しているもののほとんどの学生は「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と回答しているので、ほぼ目標は達成できたのではないかと思います。しかしながら、毎回予習や復習が必要な授業の形態をとり、毎回具体的な指示を出していたにもかかわらず、30分以上の予習や復習の時間をとらなかったものがべ4名おり、全員に十分な学修時間の確保を徹底させることができなかった。今後は予習や復習の結果を提出させるなどして、学修時間の確保の徹底を目指したい。学習の範囲や課題は第一回目の授業でプリントとして配布し、毎回の授業でも口頭で指示しているのだが、わかりにくいと感じていた学生がいるのであれば、対応を考えなければならないと思う。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	小テストや試験の成績から、基礎的知識の定着については、概ね達成できたが、30分以上の予習や復習の時間をとらなかった学生が若干名いたことから、全員に学修の習慣ができたとはいえない。予習や復習については、毎回具体的に指示したり、復習にはスマートフォンのアプリケーションを利用したりするなど、学生が学修しやすいように工夫しているが、全員に徹底できていないことから、予習や復習の状況の確認をより徹底するなどして、来年度は改善していきたい。

学科	英語学科
氏名	阿部 弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Practical Eng. Phonetics II (Aクラス)	1	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①必修科目であるため、「受講動機」は100%であるが、「関心のある内容である」を選択した者が1名いた。 ②受講生にとって、中学・高校までの英語の授業でほとんど体験したことがない領域を取り扱うため、前学期同様15回の授業進行に対する詳細なシラバスを作成した。 ③前学期に配布しておいたハンドアウトは、毎回の授業と関連付けた説明用として継続的に使用した。 ④授業の時間帯は月曜日のⅠ・Ⅱ時限目であったが、準備のために毎回8時45分までには教室に向き、授業の準備をし、定刻に授業を開始した。 ⑤施設改修の関係で、前学期まで長年使用してきた531番教室から普通教室に移動しての授業体制になったため、特色としている「Group Lesson」への教室移動が不便になってしまった。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①学期末の達成度評価において、担当者が掲げた3つの項目を、全員クリアできた。最終的な成績の平均値は76.3点であり、再試対象者は1名出たが、最終的には合格であった。内訳は、秀3名、優13名、良12名、可4名であった。 ②15週の出欠状況は、16名中、途中放棄した再履修者1名を除けば、無欠席15名、1回欠席12名、2回欠席が2名、3回欠席が3名であった。 ③学期末に独自に実施している評価(匿名で授業の感想を書かせ10点評価で提出させる用紙)によると、A・B両クラスとも8割を超え、概ね満足している状況が窺える。 ④受講者によるDP(1)の「授業評価アンケート」の目標達成感は、「わりにそうだと思う」が一番多く、「まあまあそうだと思う」「かなりそうだと思う」が続いている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本教科は「専門基礎科目」の一つで、1年次必修の2単位科目である。また、本科目はその性質上、すべての英語学習者に、言語音としての英語発音のメカニズムを正確な形で修得させる学問であると位置付けている。さらに、本科目は他の英語関連科目の礎をなすものである。また、教職課程履修者などには、非常に重要な科目として位置づけることができるため、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識・理解の領域において、DP1-2の「英語に関する確かな知識と運用能力を身につけている」ということに関しては、本科目が高校終了時まで、その詳細をほとんど教えていない点を考慮して、十分な時間をかけながら次の内容に重きを置いた。すなわち、調音音声学的にみた英語母音と日本語母音の音構造の基本的な違い、英語の強形・弱形の関係、リズムとイントネーションの関係などを詳細に取り扱った。評価として、学期末試験、発音テストなどを通じて、再試該当者が1名いたが、最終的には全員合格に至ったことで、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質評価に関しては、(1)～(5)の各項目において、それらの中央値4.0と比較した場合、いずれも4.0～4.1の範囲に位置しており、受講者側からの特別な改善課題は見いだせない。担当者への意見は、「とてもわかりやすかったです」という1点だけであった。 ②英語発音に受講者の基礎知識には大幅な格差があるが、高校終了時まで、その基礎知識の指導を受けてきていない者がほとんどであるため、基礎の基礎となる底辺をいかに揃えるかが、常時間われている。そのため、いかに効果的な音声指導法を構築するかが、担当者にとって毎年の継続課題となっている。 ③学習量に関しては、予習・復習とも1回以上(2、3回を含む)30分程度以上行った者が66%で0回がその残りである。特に前者は前学期の「Practical Eng. Phonetics I」の75.6%と比較して、約10%低くなっていたのが、次回へ向けた反省材料である。 ④情報利用におけるシラバスの活用は、参考にした者43.8%、しなかった者56.2%で、前者は前学期の数値48%よりやや下がっている。また、あらかじめ授業の計画を立案したか否かに関しては、立案した者は22%で、立案しなかった者の78%を大きく下回るのは、次年度への課題となる。 ⑤図書館等の利用に関する3項目に関しては、科目の性質上やむを得ないが、9割以上の者が、利用していないという結果になっている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①専門基礎科目で、1年生必修であるという位置付けから、英語音声に関する基礎知識の形成、及び実践的能力の修得においては、概ね達成できた。 ②このことにより、当科目は、他の英語専門科目の中で、音声を通して学習効果を試すことが可能になる。 ③シラバスの入念な説明は、第1回目の授業時に行っているが、上記に示したように、活用していない者が前学期同様5割以上いるのは気になる数字である。また、予習・復習の学習量も前学期より数値が下がっているのは課題が残る。 ④図書館等の利用率が低いのは、科目の性質上やむを得ない部分ではあるものの、何だかの手立てはないか模索してみる。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	L. Dennis Woolbright

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Discussion II (Aクラス)	2	後期	必修	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	In the second semester students have improved their general communication skills to some extent. They learned a lot of vocabulary through writing sentences using the new words that they didn't know. They also experienced pair practice, using the English that they were studying. Students also availed them selves of computer assisted learning and attended English lectures to improve their hearing ability. They were able to offer their own opinions on a variety of topics.
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students performed well. Each week the students were given a short comprehension quiz as well as making a short presentation on the subject matter related to the text. They also wrote sentences using new vocabulary presented in the lesson. Students made positive coments on the evaluation sheet forms.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In the second semester of this class, the students continued working hard and showed a strong attitude towards learning, so t both DP1 and DP3 were achieved. There were some problems with absences, participation in class was usually strong, and homework was generally done. For DP1 and DP5, although we focused a lot on building their basic skills, particularly in vocabulary, many students did not make significant gains.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

This semester included more structure for this class. Students prepared their homework so that perhaps and e-mailed the drafts to the teacher before the actual presentation day thus giving them more time to practice their presentation. In the future even more structure is needed. More performance-style activities and assessment tools so students have greater opportunities to communicate in English. A stricter assessment system that evaluates their skills and knowledge, as opposed to the current system which focuses too much on attitude and class performance.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

The students were not able to achieve the aims of this class including improving their general communication skills, being able to express an opinion and disagree with other's opinions, because many were often absent. Some students were able to clearly express their own point of view and defend it.

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
English Presentation	2	後期	必修	いいえ	42

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This is a very practical course and totally relies on the students achieving certain goals during the course in a timely manner in order to get credit for the course. During the semester, we work on 5 sub-projects, each one focusing on a particular skill area. At the end of the course, the students bring all these skills together to perform a final presentation in English. We followed a cycle of preparation one week, then performance the next week throughout the semester.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed using the following rubric: 6 x presentations (35%), written report (20%), workbook (20%), and final presentation (25%). They were able to access their grades at any time during the semester on the Moodle online course. It was a large class with over 40 students (which was a challenge!!), and grades ranged from 65% to 97%. 3 students failed the course through non-submission of assignments and multiple absences. Most students scored in the 80% decile.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	All in all, I was exceptionally pleased with how the students worked in this class, and the results they produced. They showed a strong willingness to learn and tackled all the assignments with gusto! For that reason, I feel DP1, DP2, and DP5 were all achieved.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For the coming year, we will have to redesign the course as it is going to take place in the Active Learning room (531) instead of the computer lab. This means we will have to flip the curriculum, with students doing more self-study and lesson preparation with the actual class being used more for presentation techniques. We might possibly split the class in two for this if it seems we have a large group to work with.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

I feel the assessment rubric used is OK as it was effective in getting the students to work towards a goal.

学科	英語学科
氏名	Andrew Anthony Joseph Zitzmann

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
Creative Writing(Aクラス)	2	後期	必修	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」 なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、 これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course is centered on the development of their writing skills by experimenting with new vocabulary and structures. Nurturing creativity with the use of various different types of writing styles and activities.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	The class was basically divided into two groups: those with a good work ethic and attitude; and those who hoped to coast through the course with minimal effort.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	In general the results were okay. The basic skills were generally okay. The problems started to show when the work required to go beyond reproducing the target structure and using creativity to achieve originality. Difficult at the easiest of times, some of the students rose to the challenge and produced quality results. Generally the attitude was good with the exception of a few.
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

It is necessary to continue supporting the students in their quest for originality. It isn't an easy road for them and they are easily diverted from the task. Solid explanation and examples should help to provide the basics that lead to creative writing.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

The subjective nature of evaluating creative writing makes it difficult to evaluate the students in this course. However, I think the way it is set now with weight put on production rather than quality, provides a fair evaluation of the students efforts in the course.

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Creative Writing(Bクラス)	2	後期	必修	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	Creative ライティングであることを鑑み、テーマに関して学生達自身の考えをまず引き出し、それを英文にまとめる作業を大切にした。従って、事前に話し合いで決めたテーマについて、学生の意見を吸い上げることに授業時間の多くを使った。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	受講生21名中、16名が80点以上の成績を取めた。うち12名が90点以上であった。出席日数不足による単位未修得が2名、再試による単位取得が1名。アンケートの自由記述で、3名から、英文で書く内容が結局は教員の意見に集約されてしまい、自分の意見を表明する機会を奪われた、というコメントがあった。これは担当教員としては全く心外なコメントであり、意見を表明する時間や促しは十分に行い、確認も行っていた。そうしたコメントを事後に書いてくると言うことは、学生達が、自分と異なる人間と意見を交わしたり、理解したりしようとする、最終的には異文化間コミュニケーションにつながる態度を身につけなかったと判断する。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。
--	--------

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	進め方などについては、特に問題はなかった。ただし、4で言及したように学生がうちに秘めている考えを英文に表すことができなかったという点は、何らかの対創作を考えてみたい。但し、学生の基礎的な英語力に限界があるため、そこのバランスを考えたり、更に根本的には彼女たちが日本語においても自分の考えを論理的にまとめる力が不十分であるという現実を考えると、大きな変更は難しいと予想する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	概ね、本科目の目的は達成されたと考える。
------------------------------	-----------------------------

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語文学入門Ⅱ	2	後期	必修	はい	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①速読と精読の両面から文学作品にアプローチするための導入授業として、前期で踏まえた読書経験と知識を土台に更なる発展を促した。 ②前期より難易度の高い2冊の小説を取り扱い、文学的批評を紹介し、映画の解釈と比較も学生に行わせた。 ③レポートに比重を置いたので、毎回のレポートの採点や、最後に提出するレポートの添削を行った。学習量も「1回30分程度以上の準備を行った学生が36名中③が11名④が10名⑤が5名などと比較的沢山勉強したというデータになっている。 ④図書館の多読コーナーへの誘導を行い、学生に読書を促した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	秀が42%、優が17%、良が17%、可が10%、不可が14%で、不可の学生は基本的に留学中や、大学に来なくなった学生、退学した学生である。到達度自己評価では(1)自分なりの目標を達成したと感じている学生は、36名中①0名、②5名、③20名、④9名⑤2名であった。自由記述ではほとんどの学生がこの授業を通して「文学に興味がわいた」と回答した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必修の科目なので、文学を選択したい学生もそうでない学生も受講することとなり、英語学科には珍しく大人数のクラスとなるが、専門基礎科目となるこの講義に置いてどの学生にも教養としての文学の知識や楽しさを教授できたのは良かったと思う。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

特にレポート作成などに関しては、図書館の利用を促したものの、36名中利用したと回答したものは12名にとどまったのは残念な結果であった。今後は参考文献に絶対に図書館の本を入れるようになどと、強制してでも文学学習につなげるために、図書館の利用を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

目標達成や、学習量などにおいては主旨目標は達成されたが、レポートの内容や形式に関する改善点はまだ熟考の余地がある。また授業中に話し合いや発表など学生のグループワークを促す時間もあれば更に良い。

学科	英語学科
氏名	村田 希巳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英検演習B	1・2・3	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英検の問題をこなし、単語力、リスニング能力、文法力を伸ばすことに重点を置いた。英語科は、学習量の評価は、授業に参加するために1回30分以上準備を行う学生が82パーセント、1回30分以上復習する学生も70.7パーセントと全学部の中で最も多い。熱心に学習に取り組む学科である。自由記述を見ると、授業以外に学習に取り組んだ学生が、8人中「単語」「単語の練習」と答えた学生がほとんどだった。英検の可否は単語力にあることを、理解しているためと考えられる。けれども少数ではあるが、なかには、バイトその他で、「忙しすぎる」、「時間がない」と答えている学生がいるのが残念だ。このクラスは、毎回必ず単語のテストを行い、単語力の拡大に力を入れてきた。大雪の日だったにも関わらず、4人が検定試験を受け、2人合格したのは、単語力の増大が出来たからと、考えられる。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	単語のテストのトータルは、100点満点だが、範囲が広いにもかかわらず、80以上が2人。70点台が1人。この3人は、90点台なので、成績も良く、英検2級の検定の合格の可能性がかなり高い学生である。残りの3人も努力の跡が見られたが、1人はどうしても学習の要領が最後までつかめないようだった。単語のテストが、0点が多く、最後まで改善が出来なかった。					
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機は、検定2級合格で、いつも頑張ろうという意気込みが、強く感じられた。7人の受講者の中で、3人は大雪のため試験場の取りやめ、交通マヒなどで受験できなかったが、そのうち4人は何とか試験場にたどり着いた。学習到達度は、英検の受験者4人のなかで、2人が合格したので、確率はかなり良かった。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

リスニングと単語を中心に授業を行ったが、リーディングにかかる時間があまりなかったような気がする。今後学生のリーディング力を上げるのが私の課題である。
学生のなかには、授業以外の学習をしなかった理由が、「単語学習のため」「単語のため」という意見だった。仕方がないことだが、これからは、模擬テストもどんどうやらせていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

単語をを30点満点にし、授業のリスニングやリーディングテスト(70点満点)を行い、成績を出した。テストがほとんど満点で、平均は83点となった。学生は、テスト勉強は集中するが、英検2級の実力が付いたかどうかは疑問である。もっと実力の底上げができるように取り組んでいきたい。

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
TOEIC演習B	1・2・3	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 科目の性格上、TOEICテストのスコアを上げることを目標に受講する者が大半であり、そういった受講者は授業中の取り組みでも積極的であった。 2. TOEICテストが扱うビジネス・社会分野の語いや表現を学修することと並行し、実際のビジネスや社会のしくみや慣行についても理解できるように留意した。 3. 資料・音声システムを活用し、リスニング力向上を支援した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	1. 受講6名中2名がTOEICスコア500を達成できず不合格となった。1名は学習意欲が比較的乏しかったことが主因と思われるが、もう1名は授業を通じてスコア向上に結びつかず(受講前460→期末455)、少人数クラスにも拘わらず十分な指導ができなかったことを反省している。 2. クラス全体としては、受講前のTOEICスコア平均418.3が期末のスコア520.8へと100ポイント上昇しており、その点は成果が確認できる。 3. 到達度に関する学生の自己評価がほぼ4.0を上回っていることは、教育目標が概ね達成されたということであろうと理解している。					
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. DPについては、CP、カリキュラムマップ上の位置づけには特に異議はない。 2. 単なるTOEICテスト受験準備の学修ではなく、グローバル人材として必要なビジネスや社会のしくみ、日本と欧米との違い、IT化の現状などを取り上げることで、該当するDP方針に沿った授業運営を心掛けた。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1. 他の科目と異なり、TOEICテストのスコアで合否が決定するという科目の性格上、不合格を恐れて受講者が少なくなるということが、授業以前の問題として存在する。
2. TOEICテスト受験に必要な語い・表現の構築については基本的に学生個人の努力に委せている。この点については、学生に十分説明し、併せて必要な材料はハンドアウトや資料・音声システムを通じて提供しているため、今期は特に改善要望は受けなかった。
3. 授業評価でほぼ4.0を上回っており、授業内容については学生のニーズに沿ったものであったものと理解している。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況については上記の通り。総括的評価については、個別の学生の学習上の困難について、本人に学習意欲があるにも拘わらず、今一歩踏み込んで支援できなかったことを今後の改善課題としたい。

1273000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	英語学科
氏名	石川 朋子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	27

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。

開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

今回の授業アンケートの「受講動機」を見ると、「必修科目である」が4.8%、「資格取得に必要である」が14.3%、「関心のある内容である」が38.1%、「単位数を確保する」が57.1%、「友人が履修している」が4.8%であった。これより「単位数を確保する」という理由で本科目を受講した学生が圧倒的に多いことが分かる。このことは、履修登録状況にも現れていた。というのも、本科目の開講前の履修登録者数は5名だったのが、開講後27名になったからだ。この時「時間割の都合」を訴えていた学生も多かった。以上の状況から、本科目にあまり関心がないにも関わらず受講する学生が多いと推測できたため、できるだけ主体的な学びを促すことで学生の関心を高めるよう努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

期末試験を受験した27名の最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は0名であった(インフルエンザ罹患のための追試対象が1名いた。平均値算出の際は当該者の成績を100点満点に換算した)。そのうち、90点以上は13名、80点～89点は7名、70点～79点は3名、60点～69点は4名であった。期末試験受験者全員が標準的レベルに達し、理想的レベルである80点以上の成績を修めた者が27名中20名と多くを占めた。

学生による授業評価の「到達度自己評価」を見ると、知識理解に関する項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は3.7、中央値は4.0であった。これにより、DP1知識理解に関する教育目標は「やや達成された」と言えよう。思考判断に関する項目(3)「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」、(4)「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、(5)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値はいずれも3.6、中央値は(4)が3.5で、他は4.0であった。これより、DP2思考判断に関する教育目標も「やや達成された」と言えよう。次に意欲関心に関する項目(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」に目を向けると、その平均値は3.7、中央値は4.0であった。これより、DP3意欲関心に関する教育目標も、「やや達成された」と判断できる。

DP4態度に関しては、学生による授業評価の「学習量の評価」を観察したい。項目(1)「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」では、アンケート回答者22名のうち0回が9名、1回が8名、2、3回が3名、4、5回が2名であった。また、項目(2)「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」では、アンケート回答者22名のうち0回が11名、1回が6名、2、3回が4名、4、5回が1名であった。これらの結果から、学生は準備や復習に取り組んでいるものの、その頻度はあまり多くないことが示された。よって、DP4態度に関する教育目標は、「やや達成された」と考えられる。

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「選択科目」であるが、日本語教員資格取得希望者にとっては必修科目である。しかし、実際に本科目が必修であった者は1名だけで、日本の歴史と文化地理に対する興味・関心というより単位数確保の必要性から本科目を受講した者が多く、動機付けに苦慮する面があった。この課題に応えるように工夫した結果、受講生全員が一定の成績を収めたことから、内容的には妥当であると考ええる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

受講生の期末試験・小テストの結果やプレゼンテーション及びその実施報告書の内容、また、授業態度、出席状況等は概ね標準的なレベルに達していたことから、内容的には妥当であると考ええる。ただ、一部の学生に私語や居残り、携帯電話の使用等が見られたため、注意に時間を要した。

③まとめ

以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業アンケートの「授業の質評価」の各項目の平均値は最低が3.6、最高が3.8で、平均値はいずれも4.0であったことから、授業の進め方について大きな問題はなかったと考える。ただ、プレゼンテーションや小テストを課したにも関わらず、学習量は少ない。次年度は、もう少し時間をかけて取り組ませるような工夫をしたい。 授業アンケートの「学生からの意見」には学習量の評価に関して、調べ物やテスト勉強などに取り組んだとの記述があったが、先述のように、これらに割く時間がもう少し長くなることが理想である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の主眼である、日本の歴史と文化地理に関する基礎知識の習得という目標は概ね達成できた。課題としては、学生が準備や復習に取り組む時間を増やす工夫をすることが挙げられる。 今年度は、受講生が5名から27名に急に増えたり、希望していた教室が使えなかったりといった問題があった。教室に関しては、スライドが見にくかったり、近くにロッカーがあることから早めに授業を終えた学生たちの話し声がうるさく何度も注意に出向き授業を中断せざるを得なかったりした。来年度は、受講生数の増減に対応できるようしっかりと準備をしておきたい。また、教室に関しては、本稿執筆時点で希望の教室が確保できているので、今年度のような事態にはならないと思われる。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	石川 朋子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本の歴史と文化地理Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	今回の授業アンケートの「受講動機」を見ると、「必修科目である」が回答者総数3名中1名、「関心のある内容である」が回答者総数3名中2名、「単位数を確保する」が回答者総数3名2名であった。これより、“単位も必要だが関心もある”という学生が本科目を受講したことが分かる。 学修準備性に関して言えば、本科目は「日本の歴史と文化地理Ⅰ」に続く科目という位置付けだが「同Ⅰ」も「同Ⅱ」も今年度が初めての開講だったため、今回の学生はいずれも「日本の歴史と文化地理Ⅰ」は受講していない。つまり「同Ⅰ」で扱う基礎的な事項を習得していない可能性が高かった。よって、授業の実施にあたっては、基本事項の確認を怠らないようにしつつ「日本の歴史と文化地理Ⅱ」に相応しい内容となるよう努めた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	期末試験を受験した5名の最終的な成績の平均値は83.2点であり、再試験対象は0名であった。そのうち、90点以上は1名、80点～89点は3名、70点～79点は1名であった。期末試験受験者全員が標準的レベルに達し、理想的レベルである80点以上の成績を修めた者が5名中4名と多くを占めた。 学生による授業評価の「到達度自己評価」を見ると、知識理解に関する項目(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.3、中央値は4.0であった。これにより、DP1知識理解に関する教育目標は「達成された」と言えよう。思考判断に関する項目(3)「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値は4.3、中央値は4.0、(4)「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」及び(5)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値は共に3.8、中央値は4.0であった。これより、DP2思考判断に関する教育目標は「やや達成された」と判断できる。次に意欲関心に関する項目(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」に目を向けると、その平均値は3.8、中央値は4.0であった。これより、DP3意欲関心に関する教育目標も「やや達成された」と判断できる。 DP4態度に関しては、学生による授業評価の「学習量の評価」を観察したい。項目(1)「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」では、アンケート回答者4名のうち1回が2名、2、3回が1名、4、5回が1名であった。また、項目(2)「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」では、アンケート回答者4名のうち0回が1名、1回が2名、4、5回が1名であった。これらの結果から、学生は準備や復習に取り組んではいるものの、その頻度はあまり多くないことが示された。よって、DP4態度に関する教育目標は、「やや達成された」と考えられる。 DP5技能表現に関しては学生による授業評価の「到達度自己評価」に再び目を向けたい。技能表現に関する項目(7)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要と					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「選択科目」であるが、日本語教員資格取得希望者にとっては必修科目である。しかし、実際に本科目が必修であった者は1名だけであった。日本語教員資格取得希望者以外の学生も、程度の差はあれ、日本の歴史と文化地理に対する興味・関心を持っている様子が観察された。彼らの興味・関心が増すよう工夫した結果、受講生全員が一定の成績を収めたことから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講生の期末試験・小テストの結果やプレゼンテーション及びその実施報告書の内容、また、授業態度、出席状況等は概ね標準的なレベルに達していたことから、内容的には妥当であると考え。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業アンケートの「授業の質評価」の各項目の平均値は最低が4.0、最高が4.3で、平均値は最低が4.0、最高が4.5であったことから、授業の進め方について大きな問題はなかったと考える。ただ、プレゼンテーションや小テストを課したにも関わらず、学習量は少ない傾向がある。次年度は、もう少し時間をかけさせたい。 授業アンケートの「学生からの意見」に関しては、学習量の評価について「小テストの勉強をした」という記述があったただけだが、先述のように、小テストやプレゼンテーションの準備、発表報告書の作成等に割く時間がもう少し長くなることが理想的である。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の主眼である、日本の歴史と文化地理に関する基礎知識の習得という目標は概ね達成できた。課題としては、学生が準備や復習に取り組む時間を増やす工夫をすることが挙げられる。 今年度は、希望していた教室が使えないという問題があった。そのため、スライドが見にくかったり、近くにロッカーがあることから早めに授業を終えた学生たちの話し声がうるさく何度も注意に出向き授業を中断せざるを得なかったりした。来年度は、本稿執筆時点で希望の教室が確保できているので、今年度のような事態にはならないと思われる。

学科	英語学科
氏名	Malcolm Ross Swanson

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
Area Studies II	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	This course follows on from Area Studies I which focuses heavily on Europe, particularly Germany. Realising that the students generally have a very poor conceptualisation of where they are in the world and the richness of cultures around the, AS II focused less on countries and more on concepts such as family, education, food, recreation, government, etc to give the students a broader outlook and better global perspective.
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	Students were assessed on grades for each unit of study, plus a final project. Assessment was kept open and transparent so that students were always aware of how they were doing in the class. Grades ranged from 72% to 96%, with the mean score around 83%. All students who enrolled in the course passed.					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	Students showed a positive attitude to this class and an appreciation of its practical nature., so DP3 and DP4 in particular were achieved. Weaknesses in general knowledge and background caused problems with DP1 and DP5, but by the end of the course the students had made significant gains.
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に教えてください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

For future courses, I want to build the concept of portfolios more strongly into the course structure so that the students have a centralized resource area they can use to collate what they have learned. This will probably be done using a Moodle course specifically for this purpose. I also believe the students should be more actively involved in the planning of the course so they have a greater investment in its outcomes.

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

As stated in #6 above, I want to introduce a portfolio assesment system into this year's course so that students are more strongly aware of what they need to be achieving in the class. To encourage active learning, students should also have a say in the assessment criteria for the class.

学科	英語学科
氏名	大谷 浩

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語学概論Ⅱ	2・3・4	後期	選択	いいえ	33

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	英語学概論で一般的触れられる内容を、時として減らしてでも、学生達が理解できる内容に落とし込むことを常に心がけた。特に最初の単元であった意味論は、抽象的な思考が必要とされ、「意味の意味」を定義する3つの主流となる考え方を理解させるのに、予定時間を超えて具体的例をたくさん挙げる事を試みた。その後の社会言語学や国家の言語政策においても、身近な例をたくさん準備して授業に臨んだ。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講学生数31名のうち16名が最終評価で80点以上の成績を収めた。授業の後には毎回リアクションペーパーを提出させているが、毎回講義内容についての興味関心が刺激されたことを記述している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	妥当である。現在は選択科目扱いであるが、この教科は、近い将来英語学科として必修科目とすべきである。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

一般大学レベルでの英語学概論と比べるとおそらく内容が十分網羅されていない部分があると思う。しかし本学学生の理解力を考慮した際、そうした修正はやむを得ないとする。何より、英語学全般にまず興味関心を持たせることが第一義である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

概ね良好である。

学科	英語学科
氏名	横溝 紳一郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
異文化間コミュニケーションⅡ	2・3・4	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づき、上記のような判断を下すに至った。「態度」が、「達成された」ではなく「やや達成された」になったのは、予習復習時間・情報利用・図書館／インターネット利用の項目で、高得点でなかったことによる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	「受講動機」で一番多かったのが「関心のある内容である」であったことから考えて、日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当てながら、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し本科目は、内容的妥当性が高かったと判断できる。そのことは、学生の授業評価アンケートの数値、自由記述にも表れている。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業の進め方については、ほぼ問題がないと思われる。「授業最後の小グループ発表」に関しては、肯定的な意見が多いものの、「活気がなく、張り合いがない」という意見も見られるので、この点の改善について考えていきたいと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業評価アンケートの数値、自由記述に基づくと、授業自体の質は高く評価されていると考えられる。授業の内容上、予習復習・情報利用・図書館／インターネット利用を特に必要としない授業をデザイン・運用してきた。このことが「課題」であるかどうか考え、改善の必要があれば、その改善に努めたいと思う。また、「授業最後の小グループ発表」に関しても、改善の必要性について吟味していきたいと思う。

1274000

リフレクションカード 2015年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用時事英語	2・3・4	後期	選択	いいえ	40

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。

開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、自由記述の意見など

前期の時事英語入門と同様、難解というイメージが伴いがちな時事に、より深く興味・関心を学生に持ってもらうために、時事英語そのものだけでなく、取り上げた事項やニュースの背後にある背景知識にも言及するようにした。また、前期入門クラスとの差別化を図るため、英文記事などの難度を上げ、応用クラスを受講しているという実感をもってもらえるような教材の選定を心がけた。そのために、できるだけ新しい内容の時事的ニュースをリーディングとリスニングの両面から導入した。また、授業以外の時間にもニュースや時事の事項にふれる機会を意識的にもたせるため、最新の時事英語を毎日更新しているウェブサイトを活用して、開講期間中に2回時事英単語の小テストを実施した。また、応用というクラスを踏まえて、前期入門では実施しなかった内容に関する意見交換や意見発表なども行い、担当教員と受講者間で双方向性を意識しながら内容理解の共有に努めた。全員が前期からの継続受講であったため、受講にあたってのルールなどが理解されていたため、無断欠席や遅刻がほとんど散見されなかった。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。

全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成された	達成された	達成された	やや達成された

(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。

* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。

<授業評価の指標>

「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

時事的分野は、普段学生が意識的にふれる機会が少ない分野であり、新聞、ネット、テレビなどのメディアで内容を見聞きすることはあっても、それを英語でどのように表現するのか、というところまでフォローしている学生は極めて少数と思われる。そうした前提に立ち、まずはニュースや記事の背景までを含めた知識理解を最大の目標として授業を展開した。学習到達度の自己評価においては、(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という設問に対して、受講者全員が「そうだと思う」を選択している点などから、内容的妥当性は確保されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	定期試験の結果が、こちらの予想に反して、正答率が低かった点が懸念材料である。記事の本数は前期よりも短いにもかかわらず、分量が内容とともに増加した結果、定期試験の出題範囲が細かい部分にまで及んだ点は否定できない。定期試験の答案をあらためてチェックしたところ、完璧に解答できている設問と解答が無記入になっている問題という答案パターンが多かった。この点に関しては、あつかう教材を絞り込んだうえで、その教材を反復練習するなどして、場合によっては試験前に復習などの時間を意識して創出し、学習した内容の理解・定着強化を図ることもひとつの改善策と考えている。授業の質評価においては、(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、という項目に対して、5名が「少しそうでないと思う」を選択していた。前期よりも受講生が減少しているので、そうした機会は前期よりも保証されて当然なのだが、一部の学生に意見発表や交換が若干偏向していたため、このような回答結果が出たものと分析している。学生の主体的かつ自主的な意見表明の機会をより多く創出できるような授業運営を展開していくことが今後の課題である。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という評価項目に対して、学生全員が「そうだと思う」を選択しており、時事英語入門で学習した成果を応用レベルへ発展していくという目標は達成できたと思われる。課題としては、学習した内容の理解および定着の強化を図るために、毎時間復習する時間を設け、そのアクティビティが小テストや定期試験において高い得点や、より積極的な授業への参加など受講生の学習姿勢などの大幅な改善につながるようにしたい。特に、最終授業日は新たな教材や記事を導入することなく、これまで学習した内容の復習に充当するなど、学生のニーズに合った柔軟な授業を展開することも検討したい。
------------------------------	---

1274100

リフレクションカード 2015年度後期

学科	英語学科
氏名	野中 誠司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ビジネス英語入門	2・3・4	後期	選択	いいえ	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。
開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。
<授業評価の指標>
「学修準備性」、自由記述の意見など

極めて実務的な側面の強い学習領域であるのと、学生が卒業後に実際にふれる機会が想定されることを考慮して、ビジネスの現場を反映した英語を提供することに重点をおいた。また、教科書に沿って網羅的に授業を進めるのではなく、自己のビジネス経験や最新のビジネストレンドなども織り交ぜながら、単に英語のみならず、ビジネスという分野を多角的にとられられるように授業の展開に工夫をこらした。具体的には、ビジネス英語を学習するだけでなく、それが実務ではどのように活用されているのか、またその単語に関連した派生語なども一緒に紹介することで、学生が効率良く学習できるようにこまめな板書を実践した。さらに学習した成果が確実に受講生に定着しているかを数値的に確認するために、開講期間中2回小テストを実施した。出欠に関しては、ルールを初回の授業で説明したうえで、無断欠席や遅刻をくり返すと、学習に著しく支障をきたすだけでなく、他の受講生との学習「格差」が広がるおそれがあるとして、15回すべて出席することを求めた。くわえて、無断欠席や遅刻によって、前の週で獲得した貢献度のポイントが消えるおそれがあるなど、平素の学習意欲や態度が結果に直結する点も周知徹底した。また、今回は2学科合同クラス編成のため、受講者が50名を超える形となったので、授業の運営・進行にも注意しながら、さまざまな質問に答えてもらう形で頻繁に指名を行い、90分間学生の集中力や緊張感の維持に努めた。

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	まず、出席したうえでの授業貢献度(配点:20点)という項目を設定した。これは出席が大前提の評価項目だが、この点に関しては、大半の学生が積極的に発言を行い、クラス全体が活気あふれる授業となり、非常に有効だった。発言の順番などの指名に関しては、特定の学生に偏向しないように注意をしたが、結果的にほぼ全員が何らかの形で発言をしたため、この項目の平均値は16.1だった。これは欠席をする学生がほとんどおらず、欠席回数も1～2回程度であったことも関係している。小テスト(配点:15+15=30点)に関しては、1回目の小テストでは15点満点中8.9点と正答率が50%を多少上回る程度であったが、第2回の実施には10.5点まで上昇した。具体的には、昨年と異なり、1回目から2回目の小テストで大幅にスコアが伸びた学生が多かった点である。昨年は学生間の点数差が大きかったが、今年は2回目で全体的な底上げが結果として見てとれた点である。定期試験(配点:50点)に関しては、こちらから形式などを事前に説明していたことが奏功し、平均値は69.3点であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

ビジネス英語においては、業種・業態に関係なく共通して必要な単語などが数多く存在する。そうした単語が実務の現場でどのように使われるのか、ということを知識として理解することが最も重要である。受講動機において、回答者の80%が関心のある内容であるという項目を選択しており、その結果、到達度自己評価における(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた、という項目に全員が「そうだと思う」の項目を選択している点、また数値的な根拠として、小テストが2回目の得点が1回目のそれよりも大幅に上昇している点、定期試験の平均点が70%近くを獲得している点などから、内容的に妥当であると考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生からの自由記述で、「挙手したにもかかわらず気づかれないことがあった」などの指摘があった。授業の質評価の項目においては、(4)授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、(5)口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた、という項目に対して、全員が「まあまあ」「わりに」「かなり」そうだと思うを選択していたが、自由回答にこのような記載があった点を踏まえると、授業の運営方法にはまだ改善の余地があると考える。2学科合同によるクラス編成であったため、クラス全体を統率しようという意識が強すぎた点も原因として否定できない。また、一部の学生との間でコミュニケーション上の齟齬も生じた点も自由回答で指摘されており、この点も真摯に受け止めたい。授業中の発表や教員とのやりとりは、学生の学習意欲に直結する部分である。したがって今後は、受講生のモチベーションを低下させることなく、適宜、指名についてのルール説明を徹底し、学生によってはある一定の時間において傾聴するなどのより丁寧に双方向性を重視した対応を採ることで、バランスのとれた授業を展開していき、クラス全体における英語力のポトムアップを図っていきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	DP1知識理解に対する評価を全員がその成果があったと判断した点から、最も重要な目標であるビジネス頻出の単語の習得に関しては、その目標は達成できたと考えている。ただし、開講期間中での知識理解の定着強化を図るという点が徹底できていなかった。この点に関しては、学習したものの中から、より優先度の高いものを選択して、集中的に再度説明を行い学習定着を図る、などより柔軟に対応していきたい。指名スタイルについては、おおむね評価が良好だが、指名の方法や指名した際のやりとりなどについてのルールづくりを明文化もしくは適宜口頭で説明するなどして、学生のニーズやモチベーションキープさらにはモチベーションアップに結びつくような授業準備および授業展開を今後図っていきたい。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	福田 猛仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
国際関係入門	2・3・4	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①国際関係をめぐる用語や基礎的な事実関係を理解し、覚えてもらうために、授業冒頭にその日の講義で扱う用語・基礎的事実の簡単な説明をしてから本論に入るよう心掛けた。 ②同様に、毎回、講義で扱った用語や基礎的な時事関係を暗記する宿題を出し、次の授業の冒頭に前回の内容が暗記されているかどうか、何名か学生を指名し、口頭テストを実施し、用語・基礎的事実の定着を図った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①授業中にかわされる学生コメント内容が、授業が進むにつれ、感覚的・断片的な感想から、テレビ・新聞・ネットなどから得た情報に基づき、授業で紹介した分析枠組みを踏まえた、より網羅的・論理的なもの変わっていったことから、国際関係上の出来事を自分なりの視座で眺める素地ができたのではないかと評価する。 ②一部の生徒は、授業中に挙げた参考文献を読んだ感想を披露してくれたり、学生側から関連する参考文献を紹介してもらうことがあった。単に講義を聞いて、試験を受けるという受動的な姿勢から、より能動的な姿勢への変化が見られた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP・カリキュラムマップ上の位置づけから見ても内容妥当性 本科目は、英語学科における選択科目として、言語にとどまらず、現代のグローバル社会における政治・経済・文化に関する知見を広げてもらうことを目的としたものである。地域的に、日本をはじめとする先進諸国・地域が主となるが、貧困問題・地域紛争問題を扱うことで地域的なバランスをとるよう努めている。以上の観点から内容的に妥当なものであると考える。 ②DP・行動目標から見ても内容妥当性 成績評価から、基本用語・基礎的事実の把握・理解に比べて、それらを用いて論述問題の点数は相対的に低かった。この点にかんがみて、来期以降は、基礎的な知識・情報を取捨選択し、現在の国際社会で生起する現象を自部なりの視座・枠組みを用いて分析する能力を高められるよう工夫していきたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①国際関係論の発展史をトレースする必要があるため、授業の前半はどうしても過去の事例を中心としないようにならざるを得ないところがある。学生側から眺めれば、このような状況は「歴史の勉強ではなく、もっと最新の国際状況について知りたい」という不満が生起する可能性がある。同じ内容を解説する場合でも、可能な限りアップ・トゥー・デートなケース・スタディーを準備して講義に臨みたい。 ②折角の英語科の授業なのに、英語媒体の情報・資料を使う頻度が少ない。学生の英語リテラシーを向上させる観点からも、授業中に英語圏の動画・新聞・雑誌などを積極的に活用していきたい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	言語としての英語にとどまらず、広く世界の政治・経済・文化への学生の関心・知的好奇心を喚起するという部分に関しては、一定の成果を実現できているのではないかと自己評価している。ただ、本科目で学んだことが、即、彼女らの今後の生活・キャリアにおいて役に立つかと問われれば、改善の余地はまだまだある。 国際関係論に関する知識を身に付けてもらうとともに、情報収集・分析・プレゼン・執筆など、情報を活用して自身のキャリア・アップを図るための技術や作法を修得していくための側面を強化していきたい。
------------------------------	--

学科	英語学科
氏名	篠森 英佐

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
簿記入門	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①簿記という馴染みのない学問を、如何に親しみやすく学習してもらうのが課題としてあげられる。身近な例を挙げて、具体的にイメージを考えさせて、親しみやすく、関心を持つように授業を行っている。 ②毎回、課題プリントを配布・回収し復習を促し、知識の維持向上に努めている。 ③8コマ目に中間テストを実施して、履修生毎の習熟度を把握し具体的なアドバイスを行い、意欲が向上できるように努めている。 ④昨年度の講義では、試算表項目の習熟度が低かったため、レジュメを作成し、理解を深めている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された				達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績平均は88.07であり前年度を上回る数値だったが、再試対象者が1名出ている。理想的レベルに達した割合が85.7%となり、昨年度に比べて改善した。 出席状況が良い者は最終成績も良く、欠席が多い者は成績が悪く、その差が顕著に現れた。次年度以降は、履修者全員が継続して出席したくなる授業の魅力作りも、課題の一つとして発見することができた。 なお、意欲的な者は検定試験受験を視野に入れており、その意識が学習に対する意欲向上の要因となった点を確認できた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	選択科目という位置づけから、簿記や資格に興味がある者が履修しているため、動機付けを行いやすい。また、昨年度の課題であった項目も工夫改善により一定の成果が現れており、内容的にも問題なく、全体的な最終成績も向上しているため、妥当性に問題はないと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

欠席が多くなった者に対する学習フォローに改善の余地がある。欠席者のレジュメや課題プリントを作成するなどして改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

講義、講義内問題演習、弱点フォロー、課題プリントによる自宅学習と一連の流れの中でPDCAサイクルが実行できた。サイクルを回したことにより、最終成績が昨年度より向上しているため、一定の成果は現れてきている。

しかし、上記にも示したように、欠席が多くなる者に対する学習フォローに問題が残る。学生からの意見は積極的に取り入れ、来年度の改善へと繋げていきたい。

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
インターンシップ	2・3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 2年次開講科目ということで、就業意識の未成熟さを前提として講義・演習内容を準備した。 2. 受講生の進路に関する考え方はその緒にいたばかりであったが、皆、関心が高く、課題への積極的な取り組み姿勢にもそれが感じられた。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 授業の中で積極的なコミュニケーションができない受講生が、研修先からもその点を指摘されている。学内のカウンセリングを勧めたが、それぞれ1回のみの面談で終わった模様で、有効な支援を行えなかった。 2. 通常は3年次の夏季に行われるインターンシップであり、2年生後期の実施については学生のレディネスが心配されたが、授業内の演習では積極的な取り組みが顕著で、インターンシップ先からも全般に好評価を得ることができた。成績評価の素点平均も88であった。 3. 学習到達度の自己評価において4弱の平均となっていることについては、インターンシップ先とのマッチングを優先しているため、各自の志望分野の業界研究に時間を割けなかったことが要因となっているように思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけには特に異議はない。 2. DPについては、基本的に英語を取り扱わない(研修先での体験業務は除く)当科目の獲得目標として、DP1-2は該当しないと思われる。他の項目については、6回の授業では限られるものの可能な限り取り組むようにしている。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業回数については、学生の要望もほぼ現行通りで実施していいものと思われる。English Lectureと日程を合わせて欲しい、という要望が多かったので、これについては、授業が木曜に配置された際にはできるだけ考慮したい。 2. 授業の企業研究(研修先研究)が学生の就職志望先と異なることは今後も生じるため、その旨、早い機会に学生の理解を得るようにしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	1. 新規の開講科目としては、学生の前向きな取り組みにも支えられ、無事に終了できたと考えている。 2. 課題は以下となる。 (1) 2-3月のインターンシップということで、行政、金融機関、春闘対策が重要視されている企業などにおける研修が難しく、特に北九州地区における研修先の一層の開拓が必要である。 (2) 科目単独で受け入れ先を安定的に確保するため、また本学の評価を下げないためにも、研修に向けて髪型や研修先研究、態度形成などの準備ができない不適格な学生については、研修を認めない取扱いを検討する必要を強く感じる。成績評価方法の見直しで対応したい。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	村橋 素行

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代ビジネス人材論	2・3・4	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機の「単位数を確保する」92.6%はほぼ授業中の感触通りである。各回の授業では、同様の認識で、テーマ項目を基礎情報の提供から実際の状況における能力・知識・技法の基本的な活用ができる段階までの学修項目にまとめて提示した。 学修準備性に関しては、就業意識をこれから向上させる段階の履修者が多いため、特に予習を課さず、自発的に次回テーマの関連項目に目を通す程度の提案にとどめた。復習については、社会人基礎力の継続的な向上努力以外に授業で取りあげた各種技法・知識については、実人生で必要になるまで保管しておくだけでもいいという判断が、学生にあったのではないかと考えられる。英語に関する業務知識・技法の複数の授業回については補助資料の提供で難易度を下げるなどの工夫を行った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 学生がこれまで学修してきた内容を授業で取りあげるテーマに応用する際の難易度が高いと思われるため、期末試験の評価を50%とし、授業と並行するその他の課題等への取り組みを相対的に重視している。 2. 成績評価においては、遅刻・欠席については減点ルールに基づき、レポート等各課題毎の評価はルーブリックを基本としつつ、アナログ的评价が必要と思われる観点については講評を添付して評価を行った。DP1、2、4については難易度を2年生に対応させるなど工夫したが、「説明が早口」「キーワードや概念の説明をゆっくり」という要望がでているように、タイムマネジメント、方法などで旧カリキュラム時と同様に反省点が残った。 3. それでも全体を通した評価を「やや達成された」としたのは、学生の自己評価が平均で3.5を上回っていること、また受講生の成績素点平均が80点を若干上回ってあったことに基づいている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. DP3-1、DP4-2で求められるような壮大な意欲・態度は科目の獲得目標として不要であり、現実的な一般実務基礎知識とビジネス英語文書の基本、社会人に必要とされる基礎的能力を伸ばす態度育成に傾注すべきだと考える。 2. その他については、特に異議はない。DP1については、日本産業界の現状を踏まえた上で、DP5と併せて英語によるビジネスコミュニケーションの各手法を学ぶことでレディネスを高めることができたと考える。DP2については、とくに環境、産業界、企業をとりまく理念と法制の基本を学ぶことに重点を置いた。DP4-1については、DP1-1と併せてグローバル社会における協働のあり方を学んでいる。DP5については、英語学科の学生に求められるコレボンやメールのやりとり、社会人として事務文書作成の基本を演習し、またネットや文献から情報を得、自ら考察を加えるという課題に取り組むことで、基本的なビジネスの技法を繰り返し応用するように心掛けた。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	一部の授業項目でタイムマネジメントが不十分であった。説明理解のしやすさの項目の評価平均値が3.1であったことから、授業項目の提示や説明の方法について引き続き改善が必要であると捉えている。 職業選択についても3.1とあまり参考にならなかったという評価となっている。これは、2年次で就職志望先を絞り込むこと自体には重点を置かず、人気が高い空港勤務希望者には他の選択肢の検討を提案するなど、絞り込むことより検討の幅を広げておく時期という授業意図が反映されたものと考ええる。 情報利用について、ネットを利用しなかったと回答した者があるということは理解に苦しむ。主にインターネットの適正な利用に関連して、パソコン教室における4回の授業でもネット利用については複数回取り扱っている。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	1. 授業中の論点・問題点についてのなげかけやレポート課題において意図した考察力の向上が、充分には見られなかった。日常的に複数の新聞の論調を比較し、自らの見解を発表するなどの学修形態を検討したい。 2. 技能面については、ビジネスにおける特徴的な各種手法についての基本は実際に演習し、ビジネス実務に特化した資料も提供しているため、今後は必要に応じて活用してもらえるものと思われる。実際にビジネスの現場で「慣れる」部分が多い分野であり、基礎的学修事項は概ね理解してもらえたものと思われる。
------------------------------	---

学科	英語学科
氏名	ブラウン馬本 鈴子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎演習 I	1	後期	必修	はい	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①大学での学習に必要な学ぶ技術の基本を身につけることができたようにした。 ②パソコン室を利用したり、パソコンを使ったプレゼンやレポートを課し、パソコン技術を向上できるようにした。 ③プレゼンテーションが自信を持って行えるように、その心構えや効果的な発表の仕方を学べるようにした。 ④マナーを重視し、大学生女子としての品格をあげれるようにした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価に置いてほとんどの数値が、平均値3.7～3.9であり、授業の質評価は3.9から4.0などと高評価であり、実際の成績も32名中秀16名、優14名、良2名、可0名、不可0名と好成績であったため。また毎回ほぼ全員出席であり、講義全体やプレゼン中も挙手による活発な質疑がなされた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	専門教育科目の演習・研究にあたるこの授業は、大学での勉強を始めるのに基礎中の基礎をなすものであり、成績、授業態度、評価もすべてよかったことから、内容は妥当だったのではと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学生たちは、この授業の集大成として最後にパワーポイントでプレゼンテーションを行った。パワーポイントでのプレゼンも大学生になってからが初めてという学生がほとんどであったが、学生たちや悔しい思いや達成感を味わいながら乗り越えていったように思われる。「初めてレポートをしっかりと書いたのが良かったです」「パソコン、レポートのやり方を基礎から学ぶことができ、効率的に準備することができた、今後の授業でも生かしていきたい。」「もっと社会や興味があることに対して目を向けていこうと思いました。目標は割と果たせたと思います」などの意見があった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	大学生生活のスタート時点でこの講義ができれば更に良いスタートが切れると思っていたが、将来的なカリキュラム編成では現行では1年生後期であったが、1年生前期に変更する動きがあるので実現できれば良い改善だと思う。教師が常識的なパソコン技術しかないので、何か一般人を超えるほどのパソコン技術を習得する機会があれば勉強したいと思う。
------------------------------	--